

昭和42年度

# 地力保全基本調査成績

〔十勝中部地域 忠類町〕

北海道立中央農業試験場

122

## 序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて充分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和42年度に行なつた9地域12市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和43年3月

北海道立中央農業試験場

三 島 京 治

## 調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号(昭和36年9月、農林省振興局農産課)によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号(昭和40年3月、農林省農政局農産課)及び水田土壌統設定第1次案(昭和38年12月、農技研化学部土壌第3課)による。

土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	長谷部	俊雄
土壌改良科	科長	後藤	計二
“	第1係長	小林	荘司
“	研究職員	高尾	欽彌
“	“	菊地	晃二
“	“	水元	秀彰
“	“	伊東	輝行
“	“	坂本	宣崇
“	“	小林	茂

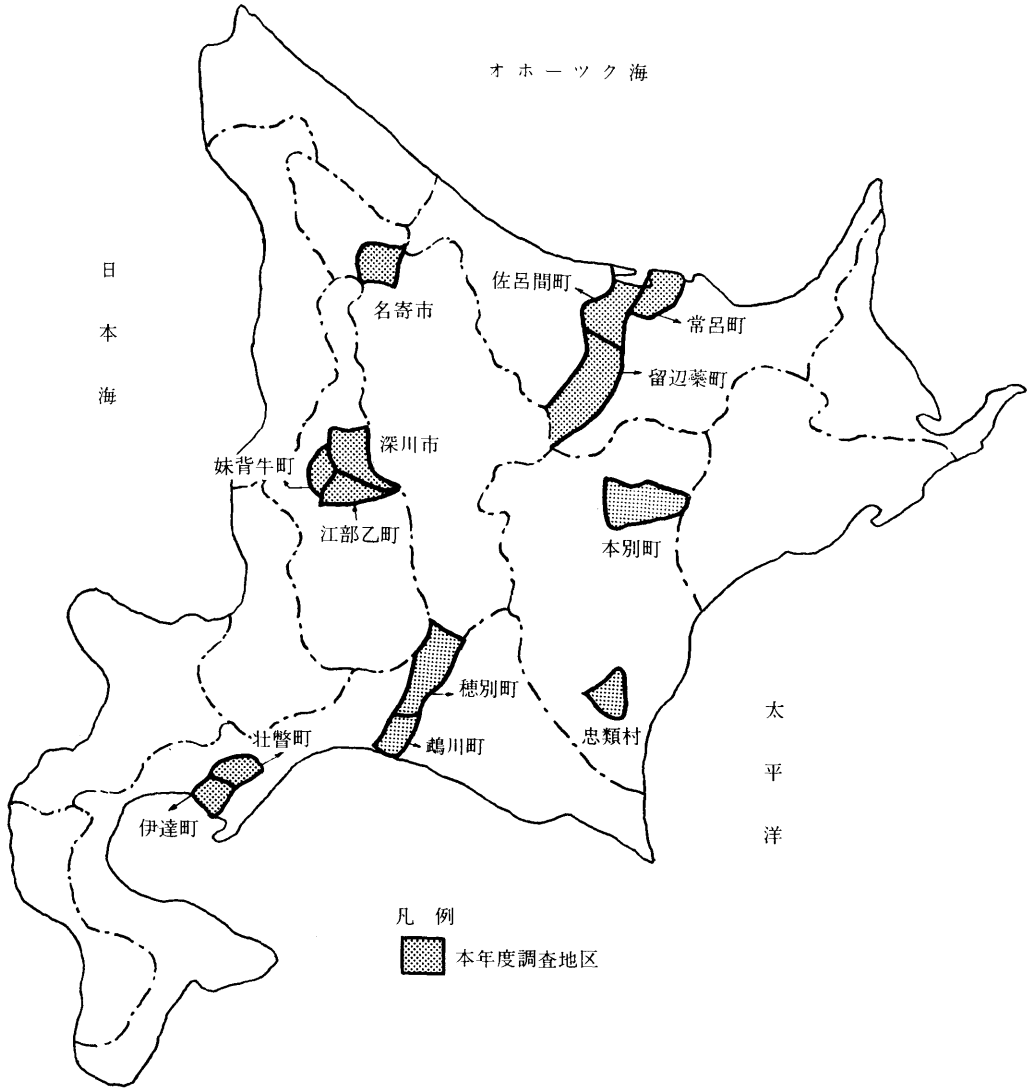
主に化学分析を担当した職員

研究職員	宮脇	忠
“	木村	清
“	松原	一実
“	上坂	晶司

1. 調査地域一覧

調査地域名	該当郡市町村名	農地面積 (調査対象面積) (ha)		既調査面積 (ha)		本年度調査面積 (ha)	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
十勝東部	中川郡本別町	108	9,972	—	270	108	9,702
十勝中部	広尾郡忠類町	—	3,688	—	—	—	3,688
佐呂間湖畔	常呂郡常呂町	55	4,335	—	1,223	55	3,112
	常呂郡佐呂間町	808	5,756	808	2,147	—	3,609
北見	常呂郡留辺蘂町	467	3,605	—	—	467	3,605
芦別	深川町	7,377	2,530	2,352	—	5,025	2,530
	空知郡江部乙町	2,380	1,091	175	240	1,590	851
上川北部	名寄市	1,590	4,163	—	2,465	866	1,698
洞爺湖畔	有珠郡伊達町	866	4,873	—	—	260	4,873
	有珠郡壮瞥町	260	1,655	—	—	417	1,655
日高沿岸	勇払郡鶴川町	2,557	768	2,140	—	925	768
日高北部内陸	勇払郡穂別町	1,127	1,007	202	—	—	1,007
空知北部	雨竜郡妹背牛町	3,249	215	—	—	—	—
合計		2,0844	43,658	5,677	6,345	11,918	37,098

# 調査地区位置図



# 十勝中部地域 忠類村

## 1. 地区の概況

### 1) 位置及び調査面積

(1) 位置 北海道広尾郡忠類村

### (2) 調査面積 (ha)

郡市町村名	畑 総 面 積			本 年 度 調 査 面 積		
	普通畑	樹園地	計	普通畑	樹園地	計
忠 類 村	3,688	—	3,688	3,688	—	3,688

### 2) 気 候

東北海道の太平洋沿岸に位置するため、海洋の影響を受ける。夏季は特に海霧の襲来が多く、気温が比較的上らず、一般に冷涼に経過することが多い。秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温が低下し一般に初霜が早く、気候的には恵まれていない。

広尾気候観測所に於ける観測成績は次の通りである。

(1925~1950の平均)

項目		月別								
		4	5	6	7	8	9	10	11	
気 温 (℃)	平 均	4.6	9.4	12.9	17.4	19.9	18.7	11.2	5.1	
	最 高 平 均	9.5	14.5	17.3	21.4	23.9	20.9	16.4	9.8	
	最 低 平 均	-0.3	4.2	8.4	13.3	15.8	12.7	5.9	0.4	
降 水 量 (mm)	平 均	103.0	110.9	109.2	131.5	147.5	234.5	153.2	155.0	
	1 日 最 多 量	183.8	135.9	197.2	262.8	156.0	313.3	129.0	135.0	
霧	日 数	—	—	15	10	2	—	—	—	
降 水	日 数	8.7	9.3	9.4	10.8	10.5	12.2	9.8	10.9	

晩霜 5月9日, 初霜 10月13日

### 3) 土壌条件

#### (1) 地 形

標高20~200mの平坦もしくは緩傾斜を呈するいくつかの段丘台地が発達している。山地に接する地帯は傾斜を呈する崩積地からなっている。また当縁川の流域は平坦な沖積地帯を形成している。

低湿地が多く、一部低位泥炭層を形成している。

#### (2) 地 質

本村の最表層は粗粒な樽前火山灰礫に被覆されている。下層は砂岩質、凝灰質、或は火山噴出物に由来すると思われる洪積世堆積物からなるものが大部分であり、河川の流域は沖積世堆積物から構成されている。当縁川の下流域にはヨシを主体とする低位泥炭が分布している。

#### (3) 侵蝕状況

最表層が軽しような火山灰層からなっているため、風水蝕を受けている。とくに春季、台地の乾燥地帯は海洋又は山地からの季節風によつて甚しい風蝕を受けている。又山地に接する傾斜地は融凍、降雨期には水蝕を受ける。

#### (4) 交 通

町の中央部を道々が貫通し、一部を除いては町道、農道も良く整備されている。又冬期間の積雪と先きの融凍時を除けば交通は便利である。

4) 土地利用及び営農状況

a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	その他
3,688	—	3,688	—	—

b) 作付面積(1戸当平均ha)

作物	豆類	てん菜	馬鈴薯	そん麦	飼料作物
面積	6.2	0.8	0.6	1.0	3.4

c) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳牛	豚	鶏
飼育戸数	292	812	34	97
育頭数	712	148	360	5,000
1戸当平均飼育頭数	2.4	5.4	10.5	51.5

d) 農機具及び施設(302戸の総数)

種類	数量	種類	数量
トラクター(個人)	19	ポテトデガー	1
“(共有)	12	スプレヤー	10
モーター	21	ビートハーベスター	1
レーキ	6	ビートリフター	10
ヘーコンデショナー	2	ビート移植機	3
テウター	1	トレーラー	9
ヘーベラー	1	尿撒布機	3
フォーレイジハーベスター	1	フロントローダー	3
ブロードキアスター	3		
ライムソアー	4		

e) 労働の関係(1戸当人数)

家族人数	労力換算	季節雇	臨時雇
5.0	3.0	0.02	14.7

当町全体の農家戸数は302戸で、このうち専業農家は277戸である。1戸当りの耕地面積は1.2.2 ha, 1戸当り所有面積は45.2 haで、全道的に見ても経営面積は大きい。

作付状況は大豆、菜豆を主とする豆類が多く、耕地面積の凡そ50%を占め、その他は、ビート、馬鈴薯、牧草を主とした飼料作物が作付けられている。豆類を主体とした穀菽経営が一般に多い。耕地以外の保有地は一部放牧地で大部分は山林となっている。

1戸当りの保有面積、耕地面積は大きいですが、一般には海洋の影きようを強く受けるので、農期間が冷涼なために畑作物の収量は低い。それに加えて、数年に一度の冷害、凶作があり、又時に風蝕の被害をこおむるなどで営農の状態は安定とは云い難い。この傾向は海岸に近づく程強く現われているのが特徴

である。

このような気象条件のため、乳牛を主体とした混同経営、或いは主畜経営への切替えを目指して進んでいる。しかしながら、相次ぐ冷害年、凶作年、他産業との所得格差の増大に伴う経済的問題が見られる。当村における乳牛飼養頭数が1戸平均5.4頭、乳牛飼養頭数9頭以上の農家が全体の20.2%、飼養頭数5頭以下の農家が全体の54.8%であり、分後主畜経営に転換しつつあるが、未だ経済的に安定な規模に至らず伸び悩みの状態にあるものを近年急速に進展せしめなければならないのが目下の課題である。

## 2. 土壌類型区分及び説明

### 1) 土壌統及び土壌区一覧

#### (1) 土壌統一覧

土壌統名	色 層 序	腐植層序	礫, 砂礫 層礫を混 在する砂層	酸 化 沈積物	土 性		母材, 堆積様式
					表 土	次 層	
更 正	YR/YR	表層腐植層	な し	な し	壤 質	壤 質	非固結火成岩 (風積) 非固結水成岩 (洪積)
拓 北	"	"	"	"	"	粘 質	" "
東 和	"	表層多腐植層	"	"	"	壤 質	" "
大 和	"	表層腐植層	"	"	"	粘 質	" "
新 生	"	表層多腐植層	"	"	"	壤 質	" "
忠 類	"	全層多腐植層	"	"	粘 質	強粘質	" "
東 宝	"	表層多腐植層	あ り	"	壤 質	"	" (風積) 崩積
萌 和 西	"	表層多腐植層	な し	"	"	壤 質	" "
萌 和 東	"	"	あ り	"	"	"	" "
中 当	"	全層多腐植層	な し	"	"	"	" "
当 緑	"	"	"	"	—	—	低位泥炭 (集積)
明 和	"	"	"	あ り	壤 質	強粘質	非固結水成岩 (風積) 非固結水成岩 (洪積)
萌 和	"	"	"	"	"	壤 質	" (風積) 沖積
当 緑 川	Y/Y	表層腐植層	"	"	強粘質	粘 質	非固結水成岩 (沖積)
平 和	YR/YR	表層多腐植層	"	"	壤 質	強粘質	非固結水成岩 (風積) 非固結水成岩 (沖積)



(2) 土壤区一覧

土壤区名			簡略分級式	畑面積 (ha)	備考 (農耕可能畑面積)			
更	正	更	正	ⅢtneⅡ(w)fs	146	210		
拓	北	拓	北	ⅢfneⅡ(w)	1,278	1,838		
東	和	東	和	ⅢneⅡ(w)f	208	300		
大	和	大	和	ⅢdneⅡ(w)fi	167	240		
新	生	新	生	Ⅱwfne	438	630		
忠	類	忠	類	Ⅱpwfne	40	60		
東	宝	東	宝	ⅢdiⅡtwfnase	102	147		
萌	和	西	萌	和	西	ⅢneⅡtwfs	16	23
萌	和	東	萌	和	東	ⅢfneⅡtdis	89	129
中	当	中	当	ⅢwⅡfne	212	305		
当	縁	当	縁	ⅣwaⅢfnⅡt	203	270		
明	和	明	和	ⅢwⅡfne	292	420		
萌	和	萌	和	ⅢwfⅡne	52	76		
当	縁	川	当	縁	川	ⅣwfⅢpfⅡtn	75	109
平	和	平	和	ⅢwnfⅡfe	370	540		

2) 土壤統別説明

更 正 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12~18cmで、腐植含量5%内外、土性はSLである。色は10YRで彩度2~3、明度2~3である。礫を含まず、発達弱度の細粒状構造或は単粒構造を呈す。ち密度7~10で頗る疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5~6.3。下層と境界は直線明瞭である。(火山灰層)。

第2層は、風蝕の被害の大きいところは欠除しているが、厚さ8~10cm。腐植含量7%内外、土性はLが主である。色は10YRで彩度2~4、明度3で、礫を含まず、発達弱度の粒状構造と細塊状の複合構造を呈す。ち密度15~18で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.8前後。下層との境界は波状少々明瞭である。

第3層は(第2層は風蝕により欠除しているところは作土直下に存在し第2層となる)厚さ10~20cmで、腐植2%以下土性はL~SLである。色は10YRで彩度4~6、明度3~6である。礫を含まず、発達弱度の塊状構造を呈す。ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)6.0前後。下層の境界は波状漸変する。

第4層(第2層が風蝕により欠除しているところは第3層となる)は厚さ13~25cmで、腐植を含まず、土性はSL~Sである。色は10YRで彩度6~8、明度5~7である。礫なく、発達弱度の塊状構造を呈し、ち密度15~18で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)6.0~6.5、下層との境界は波状明瞭である。

第5層は(第2層が風蝕により欠除しているところは第4層)地表下50~70cm以下で、腐植を欠き、土性はSである。色は7.5YRで彩度6、明度7である。礫なく、単粒状構造を呈し、ち密度は20~24で中である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡大樹町字更正 試坑 No.75

第1層	0~18 cm	腐植を含む~富む。暗褐色(10YR3/3)のSL, 礫なく, 発達弱度の細粒状構造及び単粒構造, 細孔に富む, ち密度1.2で疎, pH(H <sub>2</sub> O)6.2, 調査時の湿り乾, 層界直線明瞭(火山灰層)。
第2層	18~28 cm	腐植に富む暗褐色(10YR3/4)のL, 礫なく, 発達弱度の粒状構造と細塊状構造の複合構造, 細孔に富み, ち密度1.6で疎, pH(H <sub>2</sub> O)5.9, 調査時の湿り半乾, 層界波状稍々明瞭。
第3層	28~37 cm	腐植を欠く灰黄褐色(10YR5/4)のSL, 礫なく, 発達弱度の細塊状構造細孔に富み, ち密度1.4で疎, pH(H <sub>2</sub> O)6.0, 調査時の湿り湿, 層界波状漸変。
第4層	37~50 cm	腐植を欠く黄褐色(10YR5/8)のLS, 礫なく, 発達弱度の塊状構造, 細小孔を含む, ち密度1.5で疎, pH(H <sub>2</sub> O)6.5, 調査時の湿り湿, 層界波状明瞭。
第5層	50 cm~	腐植を欠く明黄橙色(7.5YR7/6)のS, 単粒状構造ち密度2.0で中

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~18	3.3	3.05	4.63	14.1	9.2	SL	70.6	2.43	2.93	0.21	14
2	18~25	8.2	12.3	50.1	36.7	0	L	64.6	2.42	4.57	0.32	14
3	25~37	6.4	13.2	53.0	33.8	0	SL	—	—	1.20	0.15	8
4	37~50	10.0	27.1	69.1	3.7	0	LS	—	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.1	6.2	5.2	0.50	10.6	3.4	0.5	0.2	32.0	8.42	2.8
2	7.9	5.9	4.9	0.75	19.0	2.4	0.4	0.3	12.6	—	tr
3	2.1	6.0	4.9	0.75	12.9	1.6	0.4	0.2	12.4	—	—
4	—	6.5	5.1	0.50	18.4	0.6	0.7	0.2	3.0	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては当縁統, 芽武南統, 萌和統, 美成統等があるが, 当縁統は低位泥炭であり, 芽武南統は下層が河川沖積であり, 萌和統は下層の堆積様式並びに腐植層序の相違により夫々本統と区別される。又美成統とは, 堆積様式を同じくするが, 下層の母材が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 風積(火山性)/洪積世堆積

B 地形

標高20~70mの緩波状性傾斜を有する段丘性台地。

C 気候

春夏海霧の襲来があり, 夏は一般に冷涼, 秋季は比較的好天に恵まれるが, 同時に気温が低下し, 農業上好ましくない気象条件下にある。



養分分は作土、心土共、石灰、苦土、磷酸、加里が少なく、瘠薄な土壌である。  
特殊な障害性はない。

#### B 植生及び利用状況

一部山林又は採草放牧地となつてはいるが、大部分は耕地として利用され、大麦、えん麦、馬鈴薯、大豆、菜豆、小豆、亜麻、ビート、牧草等の飼料作物が作付けられている。

一般に粗放経営なので収量は高くない。

#### C 地力保全上の問題点

本土墾区は本調査地区中風蝕の被害を最も大きく受ける場所である。このため幹線防風林の整備強化は勿論のこと、耕地防風林の完備育成が必要であり、特に海岸線一帯は防霧林をも含めた防風林の育成、保護が必要である。

風害による作土の飛散によつて、一般に表土が薄く、甚だしいところは灰黄褐色の下層土が相当部分作土に混入され、低位生産の原因となつてはいる。加えて作土は自然肥沃度の少々低い粗粒質火山灰土であり、下層も地味瘠薄な凝灰質物からなつてはいるため、堆厩肥、緑肥等有機物の施用、施肥の合理化、経営形態の転換による作付体系の再検討等によつて良好な作土の造成と地力の増進に努めることが望ましい。

このためには良好な牧草畑の造成、拡大。堆厩肥、緑肥等有機物を附加しながら漸次深耕して作土層の深化を図ること（この場合は急激な深耕を行うと一時減収を招くおそれがあるので注意を要する）。

この場合下層は磷酸固定力が大きく、苦土にも欠乏してはいるので溶成磷肥、苦土入磷酸肥料の施用が望ましい。なお当地区調査時苦土欠乏症状を呈する作物が相当見られ、特に海岸地帯に向う程多い傾向にあつた。

#### D 分 布

広尾郡忠類村古里

記載責任者 菊 地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

### 拓 北 統

#### (1) 土壌統概説

##### A 土壌統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、土性はSLである。腐植含量3.2%、色は10YRで彩度2、明度2である。礫なく、単粒状構造、孔隙なし、ち密度1.5で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.9下層との境界は判然である。

第2層は厚さ7cm内外、土性はLである。腐植含量7.9%、色は10YRで彩度3、明度2である。礫なく、発達弱度の細塊状構造、細孔あり、ち密度1.7で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.9下層との境界は判然である。

第3層は厚さ8cm内外、土性はCLである。腐植含量2.6%、色は10YRで彩度4、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造、細孔あり、ち密度1.5で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.7、下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ15cm内外、土性はSLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度6、明度4である。礫なく発達弱度の塊状構造、細孔あり、ち密度1.7で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.7、下層との境界は漸変である。

第5層は15cm内外、土性はSLである。腐植を欠き、色は10YRで彩度6、明度6である。礫なく、発達中程度の塊状構造あり、ち密度2.4で中である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡大樹町拓北 試坑 No.227

第1層	0~15cm	腐植あり, 黒褐(10YR3/2)のSL, 単粒状構造, 孔隙なし, ち密度15で中, pH(H <sub>2</sub> O)5.9, 層界判然。
第2層	15~22cm	腐植を含む黒褐(10YR2/3)のL, 礫なく, 発達弱度の塊状構造, 細孔あり, ち密度17で中, pH(H <sub>2</sub> O)5.9, 層界判然。
第3層	22~30cm	腐植あり, 暗褐(10YR3/4)のCL, 礫なく発達弱度の塊状構造, 細孔あり, ち密度15で中, pH(H <sub>2</sub> O)5.7, 層界漸変。
第4層	30~40cm	腐植を欠く, 褐(10YR4/6)のSL, 礫なく発達弱度の塊状構造, 細孔あり, ち密度17で中, pH(H <sub>2</sub> O)5.7, 層界漸変。
第5層	40~60cm	腐植を欠く, 明黄褐(10YR6/6)のSL, 礫なく発達中程度の塊状構造, ち密度24で中。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~15	3.2	50.1	33.8	12.5	3.6	SL	—	—	1.86	0.15	12
2	15~22	7.7	6.1	42.2	37.5	13.9	L	—	—	4.56	0.36	13
3	22~30	6.4	6.1	52.1	23.9	17.9	CL	—	—	1.50	0.26	8
4	30~45	6.4	22.4	45.5	18.5	13.6	SL	—	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KcI			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	3.2	5.9	4.9	0.75	7.2	2.92	0.52	0.31	40.4	603	tr
2	7.9	5.9	5.0	0.50	17.9	3.44	0.54	0.54	19.2	1,975	0.6
3	2.6	5.7	4.6	1.50	14.1	1.42	0.53	0.36	10.1	1,709	tr
4	—	5.7	4.5	3.50	13.1	0.72	1.42	0.38	5.5	1,553	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては大和統, 尾田統, 平和統等があるが母材, 堆積様式が異なるのでそれぞれ本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形

平坦~緩傾斜

C 気候

夏の気温は冷涼で, 春夏濃霧の影響を受ける。秋季は比較的好天に恵まれるが, 同時に気温が低下し農業上不利な気候条件下にある。

D 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され, 豆類, 馬鈴薯, ビート, 牧草等が栽培されている。収量はやゝ低い方である。

E 農業上の留意事項

表土は軽しような火山性土からなっているため耐侵蝕性に乏しく, 特に季節風による風蝕の被害を受



等有機物の施用を行いつつ逐次深耕して作土層を深くすることが望ましい。

この場合下層は磷酸、石灰、苦土等に欠乏しているので、これらの施用量を増加する必要がある。尚、トラクター等による急激な深耕は一時収量が低減するおそれがあるので注意を要する。

#### D 分 布

広尾郡忠類村日和、朝日、公親

調査及び記載責任者 菊 地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭 和 4 3 年 3 月 3 日

### 東 和 統

#### (1) 土壌統の概説

##### A 土壌統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外、土性はSLである。腐植含量8.2%、色は10YRで、明度2、彩度2である。礫なく、単粒状構造あり、孔隙なし、ち密度20で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.6、下層との境界は判然である。

第2層は厚さ10cm内外、土性はLである。腐植含量21.8%、色は10YRで彩度1、明度2である。礫なく発達中度の粒状構造あり、細孔あり、ち密度18で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5、下層との境界は漸変である。

第3層は厚さは20cm内外、土性はLである。腐植含量10.0%、色は10YRで彩度3、明度3である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5、下層との境界は漸変である。

第4層は厚さ20cm内外、土性はLSである。腐植を欠く、色は7.5YRで彩度6、明度5である。礫なく発達弱度の塊状構造あり、細孔あり、ち密度18で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5、下層との境界は漸変である。

第5層は70cm以下で、土性はLSである。腐植を欠き、色は10YRで明度6、彩度6である。礫なく発達中度の塊状構造、細孔、小孔あり、ち密度24で中である。

#### 代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 広尾郡大樹町東和 試坑 No17

第1層	0~20cm	腐植を含む黒褐(10YR2/2)のSL、礫なく単粒状構造、孔隙なし、ち密度20で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、層界判然。
第2層	20~30cm	腐植に富む、黒褐(10YR2/1)のL、礫なく発達中度の粒状構造、細孔あり、ち密度18で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、層界漸変。
第3層	30~50cm	腐植に富む、暗褐(10YR3/3)のL、礫なく発達弱度の塊状構造、細孔あり、ち密度18で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、層界漸変。
第4層	50~70cm	腐植を欠く、明褐(7.5YR5/6)のLS、礫なく発達弱度の塊状構造、細孔あり、ち密度18で中、pH(H <sub>2</sub> O)6.0、層界漸変。
第5層	70cm~	腐植を欠く、明黄褐(10YR6/6)のLS、礫なく、発達弱度の塊状構造、細孔、小孔あり、ち密度24で中。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~20	3.7	6.0	60.8	23.1	10.1	SL	56.1	2.04	4.73	0.34	14
2	20~30	5.7	17.9	37.2	35.4	9.5	L	49.1	2.41	12.64	0.83	15
3	30~50	10.1	7.1	46.8	34.3	11.8	L	—	—	6.29	0.50	13
4	50~70	8.0	34.2	52.5	3.9	9.4	LS	—	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 <sub>TF</sub> /100g			石灰飽 和度 %	燐酸吸 収係数	有効態燐酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	8.2	5.6	4.5	2.50	14.6	4.03	0.31	0.12	27.6	878	4.8
2	21.8	5.5	4.5	5.00	41.0	4.15	0.57	0.24	10.1	2,691	tr
3	10.0	5.5	4.7	1.75	23.1	1.85	0.56	0.23	8.0	2,540	tr
4	—	6.0	5.3	0.25	13.1	3.63	0.59	0.37	27.7	2,157	2.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては大和統, 更正統, 萌和統等があるが大和統, 萌和統とは母材, 堆積様式が異なり, 更正統とは腐植含量の差があるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候

春夏海霧があり, 夏季は一般に冷涼, 秋季は比較的好天に恵まれるが同時に気温が低下し, 農業上良好な気象条件ではない。

D 植生及び利用状況

大部分が耕地として利用され, 大麦, えん麦, ビート, 豆類, 馬鈴薯, 牧草等が栽培されている。収量は中庸である。

E 農業上の留意事項

作土, 心土共に養分含量少く, 作土は粗粒質で保肥もあまり大きくないため, 養分が流亡損失し易いと考えられる。加えて風蝕により作土の一部が飛散しているところもあるので堆厩肥等の有機物を投入しつつ漸次深耕して, 作土層を深めることが望ましく, 更に加里, 苦土等の施肥量を増量することが必要である。尚急激な深耕は一時的に減収を招くおそれがあるので改良資材(燐酸, 石灰)の投入, 施肥量の増加等の注意が必要である。

F 分布

広尾郡忠類村西当

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
東和統-東和区	III ne II (w) f



② 土壤区別説明

東和統一東和区

示性分級式(畑)

土壌	(表)	(表)	(表)	(土)	(透)	(保)	(湿)	(自)	(保)	(固)	(土)	(養)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(障)	(有)	(災)	(傾)	(傾)	(侵)	(耐)		
効土	表土	表土	表土	地	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	水	り	の	危	危	傾	方	傾	蝕	
産力	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	質	障	の	危	危	傾	蝕	
可	の	の	の	の	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	
能	厚	深	含	難	着	硬	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	性	
性	等	深	性	性	性	性	度	力	力	態	量	"	"	"	素	度	無	性	度	度	斜	斜	度	性	
級	さ	さ	量	易	(w)	f	n	i	a	s	e														
III	I	I	I	I	1	1	1	II	2	2	(2)	II	2	2	3	III	2	3	3	2	-	2	I	1	1
簡略分級式		III ne II (w) f																							

A 土壤区の特徴

この土壤区は東和統に属する。表土の厚さは25cm以上、有効土層は1m以上で深い。土性は壤質で農具の使用は容易である。透水性大、保水力小で過干のおそれがある。保肥力中、固定力小、自然肥沃度は中庸である。石灰、燐酸中、加里、苦土小、酸度中、養分は少ない。障害性はない。風蝕のおそれは大きい。地形は平坦である。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大麦、えん麦、ビート、豆類、馬鈴薯、牧草等が栽培されている。収量は中庸である。

C 地力保全上の問題点

作土、心土共養分含量少く作土は粗粒質で保肥力あまり大きくないため、養分が流亡損失し易いと考えられる。加えて風蝕により作土の一部が飛散しているところもあるので、堆厩肥、緑肥等有機物の投入を図りつつ漸次深耕して、作土層を深めることが望ましく、更に加里、苦土等の施肥量を増量することが必要である。

尚、急激な深耕は一時的に減収を招くおそれがあるので、改良資材(燐酸、石灰)の投入、施肥量の増加等の注意が必要である。

D 分布

広尾郡忠類村西当

調査及び記載責任者

年月日

菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

昭和43年3月31日

大 和 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14cm内外，土性はSLである。腐植含量5.5%，色は10YRで彩度2，明度3である。礫なく，単粒状構造，孔隙なし，ち密度1.4で中，pH(H<sub>2</sub>O)6.1，下層との境界は判然である。

第2層は厚さ10cm内外，土性はCLである。腐植含量4.7%，色は10YRで彩度4，明度4である。礫なく発達弱度の粒状構造，細孔あり，ち密度2.1で中，pH(H<sub>2</sub>O)5.8，下層との境界は漸変である。

第3層は厚さ22cm内外，土性はSLである。腐植を欠く，色は10YRで彩度6，明度4である。礫なく発達弱度の塊状構造，細孔あり，ち密度1.7で中，pH(H<sub>2</sub>O)5.7，下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ21cm内外，土性はSLである。腐植を欠く，色は2.5Yで，彩度4，明度5，pH(H<sub>2</sub>O)5.6，下層との境界は不規則明瞭である。

第5層は56cm以下で円礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡大樹町大和 試坑 №221

第1層	0~14cm	腐植を含む黒褐(10YR3/2)のSL，礫なく単粒状構造，孔隙なし，ち密度1.4で中，pH(H <sub>2</sub> O)6.1，層界判然。
第2層	14~23cm	腐植あり，褐(10YR4/4)のCL，礫なく発達弱度の粒状構造，細孔あり，ち密度2.1で中，pH(H <sub>2</sub> O)5.8，層界漸変。
第3層	23~35cm	腐植を欠く褐(10YR4/6)のSL，礫なく発達弱度の塊状構造，細孔あり，ち密度1.7で中，pH(H <sub>2</sub> O)5.7，層界明瞭。
第4層	35~56cm	腐植を欠く，黄褐(2.5Y5/4)のSL，小円礫あり，発達中程度の塊状構造，細孔あり，ち密度2.3で中，pH(H <sub>2</sub> O)5.6，層界不規則明瞭。
第5層	56cm~	円礫層である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~14	2.8	41.0	35.8	16.1	7.1	SL	69.2	2.46	3.17	0.24	13
2	14~23	6.8	8.2	45.8	28.9	17.2	CL	—	—	2.74	0.28	10
3	23~35	5.5	7.5	57.8	21.6	13.4	SL	—	—	—	—	—
4	35~56	4.5	6.1	65.1	16.3	12.5	SL	—	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.5	6.1	5.1	0.25	10.3	5.16	0.25	0.22	50.1	7.45	tr
2	4.7	5.8	4.8	1.00	14.8	1.60	0.35	0.32	10.8	1.741	0.4
3	—	5.7	4.6	1.50	11.9	1.80	0.50	0.22	15.1	1.492	0.2
4	—	5.6	4.5	3.00	11.0	2.10	0.35	0.24	19.1	1.242	1.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては拓北統，更正統，東和統，松山東統等があるが母材，堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積/水積(洪積)

B 地形 平坦

C 気候

春夏海霧の襲来があり、夏は一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温が低下し、農業上好ましくない気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大麦、えん麦、大豆、菜豆、ビート、牧草等が作付けられている。収量は中庸～低位である。

E 農業上の留意事項

表土が軽しような火山性土であり、下層の透水性が良好なため、一時表土が乾燥すると同時に季節風の襲来と相まって風蝕が発生し、被害を受けることがあるから、防風林の整備、耕地防風林の設置育成により、被害の防止に努めることが必要である。

作土は粗粒質で、保肥力も少々小さいから、堆厩肥、緑肥等の有機物を施用しつつ漸次深耕して作土層の深化を図ることが望ましい。同時に作土、心土とも養肥分が比較的少ないから加里、苦土の施肥量を増加する方向へ持つて行くことが必要と思われる。又、深耕により心土の一部を作土に混合する場合は加里、苦土の外に燐酸、石灰等を更に施用することが望ましい。

F 分布

広尾郡忠類村日和，西当

調査及び記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
大 和 統 一 大 和 区	III dne II(w) fi

② 土壌区別説明

大和統一大和区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	表	表	土	透	保	湿	自	保	固	土	置	有	微	酸	障	有	物	増	地	傾	自	傾	人	侵	耐	耐	
壤	効	土	土	地	然	層	分	換	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	腐	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕
生	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
産	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
性	厚	含	難	土	着	乾	沃	状	豊	含	素	度	無	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	易	湿	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
	t	d	g	p		w		f		n																		
III	I	III	I	I	1	1	1	(II)	1	1	(2)	II	2	2	1	III	2	3	2	3	-	1	II	1	2	I	1	1
簡略分級式	III dne II(w) fi																											

## A 土壌区の特徴

この土壌区は大和統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層は25～50cmで浅い。土性は壤質で農具の使用は容易である。透水性大、保水力小で過干のおそれがある。保肥力中、固定力小、自然肥沃度は中庸である。石灰、加里中、苦土、燐酸少、酸度は弱い。養分は少ない。除去や困難で物理的障害があり、風蝕のおそれも多い。地形は平坦である。

## B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大麦、えん麦、大豆、菜豆、馬鈴薯、ビート、牧草が作付けられている。収量は中庸もしくは低位である。

## C 地力保全上の問題点

土壌は粗粒、軽しうで、下層の透水性も良好なため春季一時的に表土が乾燥し、季節風の襲来によつてしばしば風蝕を受けるから幹線防風林の完備、耕地防風林の育成整備等の風蝕防止対策が必要である。

作土は粗粒のため保肥力が少々小さく、養肥分の流亡損失し易い土と考えられるので堆厩肥、緑肥等有機物の施用を行いつつ逐次深耕して作土層を深くすることが望ましい。

この場合下層は燐酸、石灰、苦土等に欠乏しているもので、これらの施用量を増加する必要がある。尚、トラクター等による急激な深耕は一時収量が低減するおそれがあるので注意を要する。

## D 分 布

広尾郡忠類村、日和、西当

調査及び記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

# 新 生 統

## (1) 土壌統の概説

### A 土壌統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、腐植含量9.0%、土性はSLである。色は10YRで明度1、彩度1である。礫なく、発達弱度の粒状構造あり、孔隙なし、ち密度1.3で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.8、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10cm内外、腐植含量13.5%、土性はLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく発達弱度の粒状、細塊状構造あり、小孔あり、ち密度1.5で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.7、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ12cm内外、腐植含量10.4%、土性はLである。色は10YRで明度2、彩度3である。礫なく発達弱度の粒状、塊状構造あり、細孔、小孔あり、ち密度2.0で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.7、下層との境界は漸変する。

第4層は厚さ20cm内外、腐植含量4.9%、土性はSLである。色は10YRで明度4、彩度6である。礫なく発達中度の塊状構造、細、小孔あり、ち密度1.6で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.9、下層との境界は漸変である。

第5層は厚さ20cm内外、腐植を欠く、色は10YRで明度6、彩度6である。礫なく発達中度の塊状構造、ち密度2.0で中である。pH(H<sub>2</sub>O)6.1、下層との境界は判然である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡忠類村新生 試坑 No.16

第1層	0~18 cm	腐植を含む, 黒(10YR1/1)のSL, 礫なく, 弱度の細粒状構造, 孔隙なし, ち密度13で疎, pH(H <sub>2</sub> O)5.8, 調査時の湿り半乾, 層界明瞭。
第2層	18~28 cm	腐植富む, 黒褐(10YR2/2)のL, 礫なし, 弱度の粒状, 塊状構造, 小孔あり, ち密度15で疎, pH(H <sub>2</sub> O)5.8, 調査時の湿り半乾, 層界判然。
第3層	28~40 cm	腐植富む, 黒褐(10YR2/3)のL, 礫なし, 弱度粒状, 塊状構造, 細小孔あり, ち密度20で中, pH(H <sub>2</sub> O)5.7, 調査時の湿り半乾, 層界漸変。
第4層	40~60 cm	腐植あり, 褐(10YR4/6)のSL, 礫なし, 中度の塊状構造, 細小孔あり, ち密度16で疎, pH(H <sub>2</sub> O)5.9, 調査時の湿り半乾, 層界漸変。
第5層	60~80 cm	腐植欠く, 明黄褐(10YR6/6), 礫なし, 中度塊状構造, 細, 小孔あり, ち密度20で中, pH(H <sub>2</sub> O)6.1, 調査時の湿り半乾, 層界判然。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~18	3.7	35.6	33.5	28.3	10.6	SL	89.9	2.73	5.22	0.33	15.5
2	18~28	7.8	6.0	48.7	36.5	8.8	L	52.5	2.76	7.83	0.56	13.9
3	28~40	8.8	5.1	57.7	29.6	7.6	L			6.03	0.47	12.7
4	40~60	8.0	9.5	66.6	21.5	2.4	SL			2.84	0.28	9.9
5	60~80	6.9	15.2	64.3	19.8	0.7	SL			—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	9.0	5.8	4.2	0.3	22.0	6.1	0.9	0.2	28.5	1.437	16.0
2	13.5	5.7	4.7	1.2	36.8	4.8	5.3	0.1	14.2	2.630	tr
3	10.4	5.7	4.8	0.3	31.7	2.3	3.9	0.1	7.9	2.707	tr
4	4.9	5.9	5.2	0.3	21.9	3.1	2.0	0.1	15.5	2.451	tr
5	—	6.1	5.4	0	13.2	1.3	1.2	0.1	10.3	2.065	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては更正統, 当縁統らがあるが, 更正統とは腐植層序が異なり, 当縁統とは母材, 堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.1℃ 年降水量 1393.1mm

D 植生及び利用状況

大部分が耕地として利用され, 豆類, ビート, えん麦らが栽培されている。収量は中庸である。

E 農業上の留意事項

心土の磷酸吸収力がつよいので深耕時には改良資材として磷酸の多施用が必要である。なお, 地力を増進するために堆肥肥らの有機物を投入しつつ漸次深耕し作土層を深めることが望ましい。

F 分布

北海道広尾郡忠類村新生

調査及び記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
新 生 統 - 新 生 区	II wfne

② 土壌区別説明

新 生 統 - 新 生 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	有 効 土 層	表 土 層	耕 転 土 層	(土 透)	(土 保 湿)	(自 保 固 土)	(養 置 換)	(有 効 態)	(障 害 性)	(災 害 性)	(傾 斜 度)	(侵 蝕 度)	(耐 風 蝕 性)
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 層	土 層	土 層	土 層	然	然	然	層 分 換	効 態	害 質 障 害	冠 水 危 險 性	斜 向 斜 度	斜 向 斜 度	風 蝕 性
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e			
	II	I	I	I	I	1	1	II	2	2	2	II	1	2
簡略分級式	II wfne													

A 土壌区の特徴

この土壌区は新生統に属する。表土の厚さは25cm以上で深い。有効土層も1m以上で深い。土性は壤質で農具の使用は容易である。透水性、保水性が中で過湿、過干のおそれは少ない。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態が中で自然肥沃度は中庸である。石灰、苦土中、加里小、有効態磷酸多、酸度が弱く養分は中庸である。障害性、災害性はないが軽度の風蝕はうける。

B 植生及び利用状況

大部分耕地化され、豆類、ビートらが栽培されている。

C 地力保全上の問題点

作土は粗粒の火山灰土壌のために軽しようであるため風蝕のおそれがあるので保全耕作が必要となる。また心土の磷酸吸収力が強いので深耕時には改良資材としての磷酸の多投入が必要である。地力が減耗しやすいので堆厩肥らの有機物の施用が大切である。

D 分 布

北海道広尾郡忠類村新生

記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

忠 類 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ19cm内外、腐植含量7.6%、土性はCLである。色は10YRで明度3、彩度3である。礫なく、単粒構造、孔隙なし、ち密度1.8で中である。pH(H<sub>2</sub>O)5.5、層界は明瞭である。

第2層は厚さ5cm内外で腐植欠く、土性はS、色は10YRで明度5、彩度4である。礫なく、単粒構造、孔隙なし、ち密度1.3で疎、層界は明瞭である。

第3層は厚さ10cm内外、腐植含量27.1%、土性はLiCである。色は10YRで明度1、彩度1である。礫なく、発達強度の細粒状構造富む、小孔含む、ち密度1.5で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.6、下層との層界は判然である。

第4層は厚さ22cm内外、腐植含量18.3%、土性はLiCである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達中～強度の細粒状、粒状構造含む、細孔、小孔に富む。ち密度1.5で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.6、下層との層界は判然である。

第5層は厚さ20cm内外、腐植含量9.5%、土性はSCLである。色は10YRで明度3、彩度2である。礫なく、弱度の塊状構造、細、小、中、大孔隙が含む～富む。ち密度1.5で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5、下層との境界は漸変する。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡忠類村忠類 試坑 No.7

第1層	0~19 cm	腐植を含む、暗褐(10YR3/3)のCL、礫なし、単粒構造、ち密度1.8で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第2層	19~24 cm	腐植欠く、灰黄褐(10YR5/4)のS、礫なく、単粒構造、ち密度1.3で疎、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第3層	24~33 cm	腐植すこぶる富む、黒褐(10YR1/1)のLiC、礫なし、発達強度の粒状構造、細孔含む、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り湿、層界判然。
第4層	33~45 cm	腐植すこぶる富む、黒褐(10YR2/2)のLiC、礫なし、発達中～強度の粒状構造、細、小、中、大孔隙に富む。ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り湿、層界判然。
第5層	45~65 cm	腐植富む、黒褐(10YR3/2)のSCL、礫なし、弱度の塊状構造、細、小、中、大孔隙富む。ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り湿、層界漸変。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~24	3.9	23.8	30.5	20.7	25.0	CL	82.0	2.61	4.41	0.36	12.1
2	24~33	8.7	3.8	24.5	28.8	42.9	LiC	59.7	2.15	15.72	0.81	21.7
3	33~45	8.0	5.7	21.8	36.1	36.4	LiC			10.61	0.72	14.7
4	45~65	6.8	3.7	62.5	16.1	17.2	SCL			5.51	0.46	11.9





### A 土壤区の特徴

この土壤区は忠類統に属する。表土の厚さは25cm以上、有効土層は1m以上で共に深い。土性が粘質で農具の使用に当つてわずかの抵抗がある。透水性、保水性が中で過湿、過干のおそれは少ない。保肥力大、固定力中、塩基の状態が中で自然肥沃度は中庸である。石灰、苦土多、加里、磷酸中で養分は中庸である。

障害性、災害性はないが侵蝕はわずかの風蝕がある。

### B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、豆類、ビート、馬鈴薯らが作付けられている。

### C 地力保全上の問題点

堆厩肥を施用しつつ漸次深耕すべきである。下層土壤を利用する場合は土壤改良資材として磷酸、石灰を多投入する。

### D 分布

北海道広尾郡忠類村忠類

記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

東 宝 統
-------

### (1) 土壤統の概説

#### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、腐植含量6.6%、土性はSLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の細粒状構造、細孔あり、ち密度1.2で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ12cm内外、腐植含量13.4%、土性はLiCである。色は10YRで明度1、彩度1である。半風化の小、中角礫含む。発達中度の粒状構造あり、細、小孔あり、ち密度1.8で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.3、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ15cm内外、腐植含量7.9%、土性はLiCである。色は10YRで明度3、彩度3である。半風化の小、中角礫含む～富む。発達中度の粒状構造細、小、中孔隙あり、ち密度1.7で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.2、下層との境界は判然である。

第4層は45cm以下で腐植は欠く、色は10YRで明度4、彩度4である。半風化～固結水成岩の角礫層である。

### 代表的断面形態

(所在地) 広尾郡忠類村東宝 試坑 No.19

第1層	0~18cm	腐植含む、黒褐(10YR2/2)のSL、礫なし、弱度の細粒状構造、細孔あり、ち密度1.2で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第2層	18~30cm	腐植富む、黒(10YR1/1)のLiC、角礫あり、中度の粒状構造、細、小孔あり、ち密度1.8で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.3、調査時の湿り湿、層界判然。
第3層	30~45cm	腐植含む、暗褐(10YR3/3)のLiC、角礫含む、中度の粒状構造、細、小、中孔あり、ち密度1.7で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り湿、層界判然。
第4層	45cm~	腐植欠く、褐(10YR4/4)、角礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~18	2.4	51.6	20.3	14.0	14.1	SL	99.1	2.60	3.83	0.51	7.5
2	18~30	6.0	14.7	20.2	29.4	35.7	LiC			7.77	0.28	17.8
3	30~45	6.8	1.7	29.4	31.3	37.6	LiC			4.58	0.43	10.4

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.6	5.5	4.6	2.5	15.3	4.6	1.3	0.1	30.0	718	20.5
2	13.4	5.3	4.2	11.2	36.4	8.0	1.3	0.2	21.8	1,643	7.2
3	7.9	5.2	4.1	25.0	35.6	7.2	1.3	0.3	20.2	1,557	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては拓北統，中当統らがあるが拓北統とは下層の母材，堆積様式が異なる。また中当統とは下層の母材，堆積様式，腐植層序，地下水位の高低が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 7.1℃ 年降水量 1393.3mm

D 植生及び利用状況

まだ一部未墾地として残っている。耕地化されたところは豆類，牧草，ビートらが作付けられている収量は低い方である。

E 農業上の留意事項

傾斜を呈するので水蝕があるので保全耕作や緑作帯の設置が必要である。深耕する場合下層土が酸度が高いので石灰の施用が大切である。

F 分布

北海道広尾郡忠類村東宝元忠類

調査及び記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立農業試験場)

年月日

昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区分	簡略分級式
東宝統-東宝区	III di II twfnase

② 土壌区別説明

東宝統-東宝区

示性分級式(畑)

土壌	有効	表土	耕	表	表	土	透	保	自	固	養	置	有	微	酸	障	有	物	災	増	傾	自	傾	人	侵	耐
生	土	土	土	土	土	地		然			層	分	効					害	冠	水	斜	然	為		水	
産	の	の	の	の	の						の	性	態	量				物	的	害	の	の			蝕	
力	の	の	の	の	の						基	灰	土	里	酸	要		害	障	害	危	危	傾	傾	蝕	
可	の	の	の	の	の						状	豊	含					有	害	無	性	度	度	斜	蝕	
能	の	の	の	の	の						力	力	態	量				害	障	無	性	度	度	斜	蝕	
性	厚	深	含	難	着	乾					度	度	否					有	害	無	性	度	度	斜	蝕	
等	さ	さ	量	易																						
級	t	d	g	p		w		f		n							i	a	s	e						
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	
簡略分級式	ⅢdiⅡtwfnase																									

A 土壌区の特徴

この土壌区は東宝統に属する。表土の厚さは15cm～20cmでやゝ浅い。有効土層は40cm内外で浅い。表土の土性は壤質で農具の使用は容易である。透水性、保水性が中で過湿、過干のおそれは少ない。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態中で、自然肥沃度は中庸である。石灰中、苦土、磷酸多、加里少で養分は中庸である。障害程度の大きい物理的な障害あり、傾斜は3°～8°である  
 侵蝕のおそれはある。

B 植生及び利用状況

一部未墾地となつている。耕地化されたところは豆類、ビート、牧草らが作付けられている。収量は低い方である。

C 地力保全上の問題点

傾斜を呈するので水蝕が発生するので保全耕作か緑作帯の設置が必要である。下層が酸性が強いので深耕時には石灰の施用を忘れてはならない。  
 作土が侵蝕のために心土が近いところは石礫が出ているので除礫の必要がある。

D 分布

北海道広尾郡忠類村東宝、元忠類

記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

萌 和 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は13～15cmで、腐植含量5%内外、土性はSLである。色は10YRで彩度3、明度3である。礫を含まず、発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度10前後で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.9前後。下層との境界は直線明瞭である。(火山灰層)

第2層は厚さ15～20cm、腐植含量16%内外、土性はSiLが主である。色は7.5YRで彩度4

明度3である。礫は存在せず、発達弱度の細塊状構造もしくは均質連結状構造を呈し、細小孔を含む。ち密度13~15で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.6前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ15~18cmで、腐植含量5~6%、土性はLが主である。色は10YRで彩度3~4、明度5である。未風化中小円礫の存在するところがある。発達弱度の塊状構造を呈し、細孔を含む、ち密度14~16で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.7前後。下層との境界は波状漸変である。一部は未風化細小中円礫に頗る富む層になつている。

第4層は地表下55~60cmで、腐植を欠き土性はSL~Lである。色は10YRで彩度6、明度7である。均質連結状構造を呈し、細孔を僅かに含む。ち密度21前後で中である。調査時の湿り湿。一部は未風化円礫層となつている。

### 代表的断面形態

(所在地) 広尾郡大樹町字萌和 試坑 No.174

第1層	0~13cm	腐植を含む暗褐色(10YR3/3)のSL, 礫なく, 発達弱度の細粒状構造, ち密度10で疎, pH(H <sub>2</sub> O)5.9, 調査時の湿り湿, 層界直線明瞭(火山灰層)
第2層	13~40cm	腐植に頗る富む黒褐色(7.5YR3/4)のSiL, 礫なく, 均質連結状構造, 細小孔を含む, ち密度13で疎, pH(H <sub>2</sub> O)5.6, 調査時の湿り湿, 層界波状稍々明瞭。
第3層	40~55cm	腐植を含む灰黄褐色(10YR5/4)のL, 礫なく, 発達弱度の塊状構造, 細孔を含む, ち密度14で疎, pH(H <sub>2</sub> O)5.7, 調査時の湿り湿, 層界波状漸変。
第4層	55cm~	腐植を欠く明黄褐色(10YR7/6)のSL, 礫なく, 均質連結状構造, 細孔を僅かに含む, ち密度21で中, 調査時の湿り湿。

### 代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全 炭 素 %	全 窒 素 %	炭 素 率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~19	3.3	33.9	43.2	17.2	5.7	SL	—	—	2.91	0.23	13
2	19~40	10.2	2.9	33.6	50.6	12.8	SiL	—	—	9.36	0.56	17
3	40~55	5.5	4.0	50.9	35.4	9.8	L	—	—	2.19	0.17	13

層位	腐 植 %	pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.0	5.9	4.8	1.29	10.0	4.3	1.1	1.1	43.3	880	5.7
2	16.1	5.6	4.4	9.66	21.2	3.2	1.8	1.0	15.3	—	tr
3	3.8	5.7	4.4	6.44	14.8	0.8	0.5	0.7	47.9	—	—

#### A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、萌和統、萌和東統、ベタン統等があるが、萌和統とは堆積様式が異なり、萌和東統、ベタン統とは腐植層序が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風 積(火山性/扇状堆土)

B 地 形 標高70~80cmの傾斜地

C 気 候

夏季の気候冷涼，濃霧の影響を受ける。秋季は比較的好天となるが，同時に気温が低下し，農業上不利な気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

面積の半ば以上は耕地として利用され，大豆，菜豆，えん麦，牧草その他飼料作物等の作物が栽培され，収量は中庸かもしくは低位である。

E 農業上の留意事項

融雪時，集中豪雨時には水侵を受けるから牧草の導入緑作帯の設置等，水蝕防止対策を講ずる必要がある。一部過湿のおそれがあるのでかかる場所は排水渠を設置することが望ましい。

F 分 布

広尾郡忠類村共栄

記載責任者 菊 地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
萌和東統-萌和東統	III ne II twfs

② 土壌区別説明

萌和西統-萌和西区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	(	(	(	土	(	(	自	(	(	養	(	(	(	障	(	傾	(	(	侵	(	(	耐	耐
壤	効	効	土	表	表	表	土	透	保	湿	然	固	層	置	有	酸	化	物	学	理	斜	斜	人	水	風	耐	耐
生	土	土	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	的	的	の	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕
産	の	の	の	の	の	の	の	乾	乾	沃	沃	状	豊	含	量	量	量	量	害	害	害	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕
力	層	層	の	の	の	の	の	乾	乾	沃	沃	状	豊	含	量	量	量	量	害	害	害	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕
可	の	の	の	の	の	の	の	乾	乾	沃	沃	状	豊	含	量	量	量	量	害	害	害	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕
能	厚	厚	含	難	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
性	等	等	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性	性	性	度	力	力	態	否	否	否	否	度	性	性	性	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	厚	厚	深	易	性	性	性																				

養分分は石灰。苦土は中庸，加里は稍々多いようであるが，磷酸含量が少い。

特殊の障害性は存在しない。

### B 植生及び利用状況

耕地として利用されているところが多く，大豆，菜豆，えん麦，牧草その他の飼料作物が栽培されている。収量は中庸もしくは低位である。

### C 地力保全上の問題点

融雪時或は降雨時には水蝕の被害を受けるので此牧草栽培，緑作帯の設置等により防止すべきである又伏流水の影響によりしばしば過湿になることがあるから，このようなところは捕水渠の設置が望ましい。

粗粒火山灰層が一部耕土となつて作土直下に存在するところがあるので，この様なところは作土と混和することが望ましい

### D 分布

広尾郡忠類村共栄

記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和43年3月31日

## 萌 和 東 統

### (1) 土壤統の概説

#### A 土壤区の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は13～15cm，腐植含量5～6%，土性はSLである。色は10YRで彩度1～3，明度2である。風化細小円礫を含むところあり，主として単粒構造を呈し，ち密度12～15で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.8前後。下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10～20cm，腐植含量7%内外，土性はSLである。色は10YR～2.5Yで彩度2～4，明度3である。半風化，風化細小円礫を含む～富む。発達弱度の粒状構造もしくは単粒構造を呈し，ち密度16～17で疎～中である。pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ13～30cmで，腐植含量3%内外，土性はSLが主である。色は10YRで彩度4～6，明度3～6である。半風化，風化細小円礫を含む～富む。単粒状構造を呈し，ち密度16前後で疎，pH(H<sub>2</sub>O)5.8前後。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下38～50cmで，腐植を欠く，半風化，風化細小中円礫に頗る富むか又は礫層である。

### 代表的断面形態

(所在地) 広尾郡大樹町字上萌和 試坑 №168

第1層	0～13 cm	腐植に富む黒褐色(10YR2/3)のSL，半風化，風化細小円礫を僅かに含む。単粒状構造，ち密度12で疎，pH(H <sub>2</sub> O)5.8，調査時の湿り半乾，層界直線明瞭。
第2層	13～23 cm	腐植に富む暗褐色(10YR3/4)のSL，半風化，風化細小円礫を含む，単粒状，ち密度17で疎，調査時の湿り半乾，pH(H <sub>2</sub> O)5.5，層界波状漸変。
第3層	23～38 cm	腐植を含む明黄褐色(10YR6/6)のSL，半風化，風化細小円礫を含む～富む，単粒状構造，ち密度16で疎，pH(H <sub>2</sub> O)5.8，調査時の湿り半乾，層界波状漸変。
第4層	38 cm～	腐植を欠く黄橙色(10YR7/8)のS，半風化，細小中円礫に頗る富む，単粒構造，調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水 分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~13	5.3	32.3	38.7	22.5	6.5	SL	74.6	2.56	3.10	0.29	11
2	13~23	6.4	30.5	43.1	22.7	3.6	SL	85.0	2.68	3.99	0.31	13
3	23~38	5.0	42.8	36.8	17.6	3.4	SL	—	—	1.71	0.16	11

層位	腐 植 %	pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有効態磷 酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.3	5.8	4.6	3.44	14.0	2.7	0.5	0.9	19.5	770	4.4
2	6.9	5.5	4.6	4.30	16.1	1.4	1.9	1.3	8.6	—	1.5
3	3.0	5.8	4.7	2.79	10.8	1.2	0.5	0.6	10.7	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、萌和統，更正統，萌和西統，ベタン統等があるが，萌和統，更生統とは堆積様式が異なり，萌和西統，ベタン統とは母材が異なるので，夫々本統と区分される。

A-3 母 材 固結火成岩

A-4 堆積様式 崩 積

B 地 形

標高70~80cmの傾斜地。

C 気 候

夏の気温は涼涼で，春夏濃霧の影響を受ける。秋季に比較的好天に恵まれるが，同時に気温が低下し農業上不利な気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され，大豆，小豆，菜豆，えん麦，牧草等が作付けられている。

E 農業上の留意事項

土壌は粗粒質で耐侵蝕が乏しく，傾斜地であるため，土壌侵蝕（水蝕）を受けるから，牧草栽培，緑作帯設置等により防止対策を講ずる必要がある。

F 分 布

広尾郡忠類村共栄

記載責任者 菊 地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
萌和東統-萌和東区	III fne II tdis

② 土壌区別説明

萌和東統一萌和東区

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	(	(	(	土	(	(	(	自	(	(	養	(	(	(	障	(	(	傾	(	(	侵	(	(					
壤	効	効	土	耘	土	土	の	地				然			層	分	"	"	効	学	理		斜	為	水	風						
生	土	土	の	の	の	乾	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	の	石	苦	加	燐	害	障	障		傾	傾	蝕	蝕					
産	の	層	の	の	粘	土	乾				沃			基	灰	土	里	酸				傾	方	傾		蝕	蝕					
力	厚	の	含	難	土	着	の	性	性	度	力	力	力	状	豊	含						害	害	斜	向	斜	度	性	性			
可	等	の	深		性	性	湿	性	性	度	度	度	度	否	量	"	"	"	度	性	性	斜	向	斜	蝕	度	性	性				
能		厚			性	性	湿	性	性	度	度	度	度	否	量	"	"	"	度	性	性	斜	向	斜	蝕	度	性	性				
性		厚			性	性	湿	性	性	度	度	度	度	否	量	"	"	"	度	性	性	斜	向	斜	蝕	度	性	性				
等		厚			性	性	湿	性	性	度	度	度	度	否	量	"	"	"	度	性	性	斜	向	斜	蝕	度	性	性				
級	さ	さ	量	易	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)	)			
	t	d	g	p			w			f			n						i		s			e								
Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	I	I	1	1	1	I	1	1	1	Ⅲ	2	2	3	Ⅲ	3	3	1	2	2	Ⅱ	1	2	Ⅱ	2	w	-	Ⅲ	2	3	3
簡略分級式 ⅢfneⅡtdis																																

A 土壌区の特徴

この土壌区は萌和東統に属する。作土の厚さは13~15cmで少々浅い、有効土層は50cm前後で中庸もしくは少々浅い。

表土は粗粒質で粘着性弱く、農具の使用は容易であるが、耐侵蝕性乏しい。下層は礫に頗る富むか乃至は礫層となっており、気水の透通は極めて良好である。

保肥力、燐酸固定力共に中庸であるが、塩基状態は不良である。

養肥分は石灰、苦土が少く、加里、燐酸は少々中庸である。

特殊の障害性はないが、礫層の浅いところは物理的障害を受けることがある。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、小豆、菜豆、えん麦、牧草その他が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

土壌の耐侵蝕性が乏しく、傾斜を有するため、主として水侵を受けるから牧草の作付、緑作帯の設置等が必要。同時に養肥分の流亡損失も多いと思われるので、堆厩肥等有機物を施用して地力の維持に努めることが必要である。

D 分布

広尾郡忠類村共栄

記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

中 当 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18cm内外、腐植含量6.2%、土性はSLである。色は10YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の細粒状構造、孔隙なし、ち密度1.5で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.7、下層との境界は明瞭である。



第2層は厚さ17cm内外，腐植含量12.5%，土性はSiLである。色は10YRで明度2，彩度1である。礫なく，発達中度の粒状構造，細，小孔あり，ち密度15で疎，pH(H<sub>2</sub>O)5.7，下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ13cm内外，腐植含量15.3%，土性はSiLである。色は10YRで明度1，彩度1である。礫なく，発達弱度の粒状，塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度11で疎，pH(H<sub>2</sub>O)5.5，下層との境界は判然である。

第4層は厚さ12cm内外，腐植含量13.9%，土性はLである。色は10YRで明度2，彩度1である。礫なく，発達弱度の粒状，塊状構造あり，細，小孔あり，ち密度20で中，pH(H<sub>2</sub>O)5.6，下層との境界は判然である。

第5層は厚さ10cm内外，腐植含量7.2%，土性はSL，色は10YRで明度3，彩度3である。礫なく，発達中度の粒状構造，塊状構造，細，小，中孔あり，ち密度16で疎，pH(H<sub>2</sub>O)7.2，下層との境界は漸変する。

第6層は70cm以下で腐植を欠く，色は10YRで，明度7，彩度4，礫なく，無構造で孔隙もない。ち密度は16で疎である。

### 代表的断面形態

(所在地) 広尾郡忠類村幌内 試坑 No.15

第1層	0~18cm	腐植を含む，黒褐(10YR2/2)のSL，礫なく，弱度の粒状構造，ち密度15で疎，孔隙なし，pH(H <sub>2</sub> O)5.75.7，調査時の湿り半乾，層界明瞭。
第2層	18~35cm	腐植富む，黒(10YR2/1)のSiL，礫なく，発達中度の粒状構造，細，小孔あり，ち密度15で疎，pH(H <sub>2</sub> O)5.7，調査時の湿り湿，層界明瞭。
第3層	35~48cm	腐植富む，黒(10YR1/1)のSiC，礫なく，中度の粒状，塊状構造，細小孔あり，ち密度11で疎，pH(H <sub>2</sub> O)5.5，調査時の湿り湿，層界判然。
第4層	48~60cm	腐植富む，黒(10YR2/1)のL，礫なく，中度の粒状，塊状構造，細，小孔あり，ち密度20で中，pH(H <sub>2</sub> O)5.6，調査時の湿り湿。層界判然。
第5層	60~70cm	腐植含む，暗褐(10YR3/3)のSL，礫なく，弱度の塊状構造，細，小孔あり，ち密度16で疎，pH(H <sub>2</sub> O)5.8，調査時の湿り湿。層界判然。
第6層	70cm~	腐植欠く，灰黄橙(10YR7/4)，礫なく，無構造，孔隙なし，ち密度16で疎，調査時の湿り湿。

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~18	2.3	42.3	30.6	23.4	3.7	SL	82.5	2.78	3.60	0.28	12.8
2	18~35	2.8	4.0	35.5	53.2	7.3	SiL	63.3	2.86	7.25	0.53	13.6
3	35~48	8.7	3.1	39.5	48.3	9.1	SiL			8.87	0.59	15.0
4	48~60	9.4	3.1	59.4	25.6	11.9	L			8.06		
5	60~70	8.9	5.6	61.2	26.1	7.1	SL			4.18		

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.2	5.7	4.7	0.9	13.0	4.1	0.3	0.1	31.4	1.014	19.7
2	12.5	5.7	4.6	1.8	41.2	3.1	5.7	0.2	7.4	2.266	tr
3	15.3	5.5	4.5	4.3	48.2	1.6	0.2	0.1	3.4	2.677	14.5
4	13.9	5.6	4.5	4.3	39.4	1.5	0.3	0.1	3.7	2.734	tr
5	7.2	5.8	4.8	0.3	28.3	1.5	0.6	0.2	5.3	2.529	tr



土層の塩基状態中で肥沃度は中庸である。磷酸多，石灰中，苦土，加里少，酸度中で養分は中庸である。風蝕のおそれ多少ある。特殊な障害性はない。

B 植生及び利用状況

主に大豆，えん麦，ビートらが作付けられている。

C 地力保全上の問題点

地下水位が高く，排水不良であるから，明渠，暗渠の排水溝の設置が必要である。酸性を呈するから矯正の必要もある。また地力が減耗し易いので塩基の補給と磷酸の多施用が大切である。また多少風蝕のおそれがあるので，防風林の設置も忘れてはならない。

D 分 布

北海道広尾郡忠類村中当

記載責任者 菊 地 晃 二（北海道立農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

当 縁 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後。主としてヨシ，スゲからなる分解少々不良な泥炭。pH(H<sub>2</sub>O)5.2，下層との境界は直線明瞭。

第2層は厚さ10cm前後，灰白色と黒色の混合から粗粒火山灰。単粒構造。pH(H<sub>2</sub>O)5.8，下層との境界は直線明瞭。

第3層は厚さ17cm前後，ヨシ，ホロムイスゲを主とする分解少々不良な泥炭。pH(H<sub>2</sub>O)5.1～5.3 下層との境界は直線少々明瞭。

第4層は厚さ15～20cm，ホロムイスゲ，ヨシ，ハンノキからなる分解不良な泥炭。pH(H<sub>2</sub>O)4.9前後。下層との境界直線明瞭。

第5層は地表から概ね60cm以下で，ヨシ，ホロムイスゲからなる亜泥炭。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 広尾郡大樹町字美成 試坑 No115 (未墾地)

第1層	0～15cm	ヨシ，スゲからなる泥炭，分解少々不良，pH(H <sub>2</sub> O)5.2，層界直線明瞭。
第2層	15～28cm	灰白と黒の混合色からなる粗粒火山灰。pH(H <sub>2</sub> O)5.8，単粒構造，層界直線明瞭。
第3層	28～45cm	ヨシ，ホロムイスゲからなる泥炭，分解少々不良。pH(H <sub>2</sub> O)5.1，層界直線少々明瞭。
第4層	45～63cm	ホロムイスゲ，ヨシ，ハンノキを主材とする泥炭。pH(H <sub>2</sub> O)4.9，層界直線少々明瞭。
第5層	63cm～	ヨシ，ホロムイスゲをかなり含む亜泥炭。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水分 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
			H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	0~15	8.2	5.2	4.4	13.11	29.0	3.6	1.6	0.4	12.4	1.306	tr
2	15~28	0.9	5.8	4.9	1.50	5.4	0.3	0.4	0.0	5.6	5.20	tr
3	28~45	6.6	5.1	4.1	21.55	34.2	6.5	2.5	0.2	19.1	—	—
4	45~63	5.3	4.9	4.1	16.73	—	4.5	3.1	0.1	—	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、美成統、更生統、萌和統、アイボンマ統等があるが、美成統、更生統、萌和統とは堆積様式が異り、又アイボンマ統は中間泥炭なので、夫々本統と区分される。

A-3 母 材 ヨシ、スゲ

A-4 堆積様式 集積（低位泥炭）

B 地 形

標高10m前後の低平地及び標高40m前後の低平地。

C 気 候

夏季の気候冷涼で、春夏海霧の影響を受ける。秋季は比較的良好となるが、気温が低下する。

D 植生及び利用状況

殆んど原野として放置されているが、一部家畜の放牧に利用していることもある。

原野には谷地坊主が存し、ヨシ、スゲ、ヤチヤナギ、ワレモコウ、ゼンマイ等が繁茂し、ヤチハンノキが散在して群生する。

E 農業上の留意事項

農地として利用する場合は、基幹となる幹線大明渠の掘さくをし、計画的な明渠排水、暗渠排水工事を施行して土地の排水を図ることが最も必要である。

酸性を呈するから、排水施行後酸性矯正をしなければならない。

尚、谷地坊主が多く存在するので、開墾に当つては機械力等による排除が好ましい。

磷酸、加里の含量が比較的低いから開墾当初は多肥が必要である。

F 分 布

広尾郡忠類村東宝，晩生

記載責任者 菊 地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
当 緑 統—当 緑 区	IVwIII fn II t

② 土壌区別説明

当 緑 統 — 当 緑 区

示性分級式(畑)

土壌生産力可能性等級	表土の層の厚さ	有効土層の深さ	表土の層の易さ	耕土の粘着性	(表土の乾硬さ)	(土地の水の乾湿性)	(透水性)	(保水性)	(自保肥力)	(固肥力)	(土層の塩基状態)	(養分交換性)	(置換性)	(有酸効能)	(障害)	(化学的障害)	(傾斜)	(自傾斜)	(人為傾斜)	(侵蝕)	(耐蝕性)								
t	d	g	p		w		f		n					i	s				e										
IV	II	I	I	I	1	1	1	IV	3	3	3	III	3	3	3	III	3	1	2	3	2	I	1	1	I	1	1	1	1
簡略分級式 IVwIIIfnII t																													

A 土壌区の特徴

この土壌区は当縁統に属する。表土は1.5cm内外で少々浅く、有効土層は1m以上で深い。最表層近く粗粒火山灰層が存在する低位泥炭で、主材はヨシ、スゲ類から構成されている。最下層は鈹質土壌を混ざる亜泥炭である。

保肥力大、磷酸固定力中庸で、塩基状態は不良である。

養肥分は磷酸、加量含量が少い。

B 植生及び利用状況

殆んど原野のまま放置されているが、一部家畜の放牧に使用している。

C 地力保全上の問題点

アイホンマ川流域に広がる地帯は現在幹線大明渠排水工事がかなり進んでいるので、今後計画的な集中明渠排水と暗渠排水の実施が必要である。

次に酸性矯正が必要である。炭カル所要量は概ね600kg/10a前後である。更に熔成磷酸の投入(40~50kg/10a)が望ましく、土壌は磷酸、加里等に欠乏しているから、これらを中心に施肥を考えることが望ましい。

D 分布

広尾郡忠類村東宝, 晩生  
 記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)  
 年月日 昭和43年3月31日

明 和 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ1.8cm内外、腐植含量6.7%、土性はSLである。色は1.0YRで明度2、彩度2である。礫なく、発達弱度の細粒状構造、孔隙なし、ち密度1.7で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ5cm内外で腐植を欠く、土性はSである。色は10YRで明度5で彩度は4である。礫なく単粒状構造、孔隙なし、ち密度11で疎、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ14cm内外、腐植含量14.9%、土性はHCである。色は10YRで明度1、彩度1である。礫なく、発達中程度の粒状構造、細孔あり、ち密度18で中、pH(H<sub>2</sub>O)4.6、下層との境界は判然である。

第4層は厚さ17cm内外、腐植含量7.0%、土性はHCである。色は10YRで、明度5、彩度1である。礫なく、発達弱度の塊状構造、細孔あり、斑鉄含む、ち密度17で疎、pH(H<sub>2</sub>O)4.6、下層との境界は漸変する。

第5層は14cm内外、腐植欠く、土性はHCである。色は10YRで明度6で彩度1である。礫なく無構造、ち密度13で疎、pH(H<sub>2</sub>O)~7、下層との境界は漸変する。

第6層は67cm以下で腐植を欠く、色は10YRで明度6、彩度1である。礫なく、無構造、孔隙なし、斑鉄あり、ち密度13で疎である。

### 代表断面形態

(所在地) 広尾郡忠類村明和 試坑 №13

第1層	0~18cm	腐植含む、黒褐(10YR2/2)のSL、礫なく、弱度の細粒状構造、孔隙なし、ち密度17で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第2層	18~22cm	腐植欠く、灰黄褐(10YR5/4)のS、礫なく、単粒状構造、孔隙なし、ち密度11で疎、調査時の湿り半乾、層界明瞭。
第3層	22~36cm	腐植含む、黒(10YR1/1)のHC、礫なく、中程度の粒状構造、細孔あり、ち密度18で中、pH(H <sub>2</sub> O)4.6、調査時の湿り湿、層界判然。
第4層	36~53cm	腐植含む、黄褐灰(10YR5/1)のHC、礫なく、弱度の塊状構造、細孔あり、ち密度19で中、pH(H <sub>2</sub> O)4.6、調査時の湿り湿、層界漸変。
第5層	53~67cm	腐植欠く、黄褐灰(10YR6/1)のHC、礫なく、無構造、孔隙なし、斑鉄含む、ち密度13で疎、調査時の湿り湿、層界漸変。
第6層	67cm~	腐植欠く、黄褐灰(10YR6/1)のHC、礫なく、無構造、孔隙なし、斑鉄あり、ち密度13で疎、調査時の湿り湿。

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~22	2.3	44.1	34.3	13.2	8.4	SL	100.6	2.22	3.89	0.298	13
2	22~36	7.5	1.2	13.1	35.7	50.0	HC	68.0	2.40	8.64	0.694	13
3	36~53	7.8	0.4	9.6	24.4	65.6	HC			4.06	0.372	12
4	53~67	6.6	5.6	4.5	30.8	59.1	HC			1.28	0.156	9

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.7	5.5	4.8	0.3	13.5	5.0	0.4	0.1	37.3	7.78	37.3
2	14.9	4.6	3.8	20.6	20.1	4.5	1.3	0.3	22.6	2.018	3.9
3	7.0	4.6	3.8	75.0	45.6	5.5	3.3	0.3	11.7	1.879	tr
4	2.2	4.7	3.7	76.2	35.5	6.8	2.9	0.3	19.2	1.526	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては更正統、萌和東統らがあるが、更正統とは腐植層序、地下水位の高低が異なり、萌和東統とは下層の母材、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩

A-4 堆積様式 風積

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 7.1℃ 年降水量 1393.1mm

D 植生及び利用状況

主として大豆、えん麦、ビートらが作付けられている。

E 農業上の留意事項

排水、酸性矯正、燐酸多施、塩基の補給

F 分布

北海道広尾郡忠類村明和

調査及び記載責任者 菊地 晃 二 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
明 和 統 - 明 和 区	IIIwII f n e

② 土壌区別説明

明 和 統 - 明 和 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	耕	(	(	(	土	(	自	(	(	養	(	(	(	障	(	(	災	(	(	傾	(	(	侵	(	(	耐				
壤	効	土	表	表	表	透	保	湿	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	耐			
生	土	土	土	土	土	地	然	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	耐	耐			
産	土	土	土	土	土	地	然	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	耐	耐	耐		
力	土	土	土	土	土	地	然	然	層	分	換	"	"	効	害	理	冠	す	斜	為	水	風	耐	耐	耐	耐	耐	耐	耐	耐	
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
能	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	
性	厚	含	難	土	着	乾	沃	沃	状	豊	含	"	"	"	害	質	障	危	危	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾	傾		
等	深	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
級	さ	さ	量	易	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(	(		
	t	d	g	p		w		f		n					i		a		s		e										
III	I	I	I	I	1	2	1	III	2	2	3	II	2	2	II	2	3	3	1	2	2	I	1	1	I	1	1	I	1	1	2
簡略分級式 IIIwII f n e																															

A 土壌区の特徴

この土壌区は明和統に属する。表土の厚さは25cm以上、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は壤質で耕起、砕土は容易である。地下水位が高く過湿のおそれが大きい。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態は中で肥沃度は中庸である。燐酸多、石灰中、苦土、加里少、酸度中で養分は中庸である。風

蝕のおそれが多少あるので防風林の設置は必要である。

#### B 植生及び利用状況

大部分耕地化され、主に大豆、ビート、えん麦、牧草らが作付けられている。

#### C 地力保全上の問題点

地下水位が高く排水不良であるから排水を図ることが先決である。燐酸を生ずるから矯正する必要もある。また火山灰土で地力が減耗し易いから塩基の補給、燐酸の多施用が大切である。また風蝕のおそれもあるので防風林の設置も忘れてはならない。

#### D 分 布

北海道広尾郡忠類村明和

記載責任者 菊 地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和43年3月31日

### 萌 和 統

#### (1) 土壌統の概説

##### A 土壌統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12～15cm、腐植含量10%内外、土性はSLである。色は10YRで彩度1～3、明度1～3である。礫なく、発達弱度の細粒状構造を呈し、ち密度1.1～1.5で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.4～5.8。下層の境界は直線明瞭である。（火山灰層）。

第2層は厚さ5cm前後。腐植含量5～8%、土性はSLが主である。色は10YRで彩度1～4、明度1～3である。礫なく単粒構造もしくは発達弱度の細粒状構造を呈し、細孔を含む。ち密度1.2～1.7で疎。pH(H<sub>2</sub>O)5.4前後。下層との境界は直線明瞭である。（本層は粗粒火山灰とその上の多腐植を合せたもので、作土層の深いところは、この粗粒火山層は作土に混合されている。）

第3層は厚さ15～25cmで（第2層を欠く場合は第2層となる）、腐植含量15～20%、土性はCL～Cである。色は10YR～2.5Yで彩度3～3、明度1～2である。礫なく、発達中度の粒状構造と細塊状構造を呈し、細小孔を含む。ち密度1.4～1.6で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.2前後。下層との境界は波状漸変する。

第4層は厚さ10～40cmで、腐植含量5%内外、土性はCL～Cである。色は10YR～2.5Yで彩度2～6である。礫なく、発達弱度の塊状構造もしくは均質連結状構造を呈し、細小中孔を含む。ち密度1.5～2.0で疎～中である。微弱なグライを呈するか、脈状、斑状の酸化沈積物を含むところがある。pH(H<sub>2</sub>O)5.6前後。下層との境界は波状時々明瞭である。

第5層は地表下60～80cm以下で、腐植含量2%以下、土性はSL～CLである。色は10YR～7.5Yとかなり幅があり、彩度2～6、明度5～7である。礫なく、発達弱度の塊状構造もしくは均質連結状を呈し、細小孔を含む。弱グライを呈するか、膜状、斑状の酸化沈積物を含む～富むものが多い。ち密度1.5～2.2で疎～中である。

#### 代 表 的 断 面 形 態

（所在地） 広尾郡大樹町字萌和 試坑 6156

第1層	0～12cm	腐植に頗る富む黒色(10YR2/1)のSL、礫なく、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.1で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界直線明瞭(火山灰層)。
第2層	12～20cm	腐植を含む黒色(10YR2/1)のSL、礫なく、発達弱度の細粒状構造、細



		孔を含む、ち密度1.4で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り半乾、層界波状稍々明瞭。
第3層	20~40 cm	腐植に頗る富む黒色(2.5Y1/0)のHC、礫なく、発達弱度の粒状構造と細塊状構造の複合構造、細小孔を含む。ち密度1.4で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り湿、層界波状漸変。
第4層	40~80 cm	腐植に富む灰黄褐色(2.5Y4/2)のHC、礫なく、均質連結状構造を呈し、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り湿、層界波状稍々明瞭。
第5層	80 cm~	腐植を欠く黄灰色(7.5Y5/2)のSL、礫なく、均質連結状構造、ち密度1.5で疎、膜状、斑状の酸化沈積物に富む。調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	深 さ cm	水 位 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土						
1	0~12	4.9	43.8	28.1	15.4	12.6	SL	66.0	2.44	5.58	0.41	14
2	12~20	3.7	53.1	27.2	13.0	6.7	SL	88.5	2.43	3.38	0.26	13
3	20~40	9.9	2.1	12.4	38.8	46.8	HC	54.2	2.20	11.93	0.88	14
4	40~80	7.5	1.3	19.5	31.5	47.7	HC	70.2	2.62	3.44	0.30	11

層位	腐 植 %	pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 取 係 数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	9.6	5.4	4.5	4.97	17.5	4.0	0.6	0.5	22.9	932	15.4
2	5.8	5.4	4.6	3.84	11.3	1.6	0.5	0.4	13.8	—	7.1
3	20.6	5.2	4.2	12.43	35.5	8.5	0.9	1.2	24.1	—	—
4	5.9	5.6	4.4	6.33	26.5	2.6	0.5	0.7	9.8	—	—

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、更正統、萌和東統、美成統、松山統、晩生西統があるが、更正統、美成統、松山統とは下層の堆積様式並びに腐植層厚の相違により本統と区別される。萌和東統、萌和西統は崩積、扇状堆積物からなるため、又、晩生西統とは堆積様式が異なるので夫々本統と区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩/非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/水積(河成堆積)

B 地 形

標高20~70mの段丘上の平坦地で、小河川の流域に分布している。

C 気 候

濃霧の襲来があり、農期間は冷涼、秋季は比較的好天となるが、同時に気温が低下する等農業上不利な気候下にある。

D 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、大豆、菜豆、小豆、馬鈴薯、ビート、えん麦、牧作物の作物が作付けられている。本調査区内では収量は稍々高い方であるが、排水不完全なところは低収量である。

E 農業上の留意事項

本統内に流下する小河川の川底が浅いこと、又河川の蛇行により、或は山地からの伏流水の影響等によって、地下水位が高く一般に排水不良となっている。現在、芽武附近まで河川改修工事が実施されて



河川の川底が浅く、又川が蛇行しているため、或は伏流水の影響により排水不良となつていて、明渠又は暗渠排水による土地の排水が必要である。

川底が浅いため排水に困難性を伴うところがかかなりあるが、そのようなところは、現在下流から実施して来ている河川改修工事の進捗を待たなければならない。

伏流水の影響が強いところは補水渠の設置が必要と思われる。

酸性を呈するので、炭カルの施用(10a当り350~400kg)による酸性矯正が望ましい。

一部作土直下に粗粒火山灰が未耕土となつて存在するところがあるが、かかるところは深耕して粗粒火山灰層を作土に混層することが望ましい。

一般に加里、苦土等の養分含量が少々少いので、施肥は加里、苦土を中心にするのが望ましい。

#### D 分 布

広尾郡忠類村古里，晩生，忠類

記載責任者 菊 地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和43年3月31日

### 当 縁 川 統

#### (1) 土壤統の概説

##### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10~15cmで、腐植含量8%内外、土性はL~Cである。色は2.5Y~7.5Yで彩度2，明度4~6のものが多く、発達弱度の細粒状構造を呈し、膜状、斑状の酸化沈積物に富むものが多く、ち密度7~15で頗る疎~疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.3，下層との境界は直線明瞭である。

第2層は厚さ10~20cm腐植含量2~3%，土性はCL~Cである。色は5Y~7.5Yで彩度2，明度4~6である。礫なく、発達弱度の細塊状構造を呈し、斑状の酸化沈積物に富む~頗る富む。細小孔を含み、ち密度14~18で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界波状漸変。

第3層は厚さ5~15cmで、腐植含量5~8%，土性はCが主である。色は7.5Yのものが多く彩度1~2，明度3~6である。礫を含まず、均質連結状構造のものが多く、ち密度10前後で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.3，ヨシの分解不良の根を含んでいる。下層との境界波状明瞭。

第4層は厚さ10cm前後、腐植を欠く粗粒火山灰層となつているものが多く、色は暗灰、淡黒色の混合色である。単粒構造を呈し、下層との境界は直線明瞭である。

第5層は地表下約30~50cm以下、ヨシ、スゲ、ハンノキからなる亜泥炭のところが多く、色は5Y~7.5Yで彩度1~2，明度2~4である。pH(H<sub>2</sub>O)5.3前後である。

一部は泥炭を含まない鉱質土壤からなっており、このようなところは、土性Cで、膜状、斑点、脈状の酸化沈積物に頗る富むかもしくはグライを呈している。

#### 代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 広尾郡大樹町字美成 試坑 №118

第1層	0~13cm	腐植に富む黄褐灰色(2.5Y6/2)のSiC，礫なく、発達弱度の細粒状構造ち密度15で疎、膜状、斑状の酸化沈積物に富む、pH(H <sub>2</sub> O)5.3，調査時の湿り湿、層界直線明瞭。
第2層	13~35cm	腐植を含む黄灰(5Y4/2)のCL，礫なく、発達弱度の細塊状構造、細小孔を含む、膜状、斑状の酸化沈積物に富み、ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5，調査時の湿り湿、境界波状明瞭。

第3層	35~40 cm	腐植を含む(泥炭を僅かに含む), 黄灰色(7.5Y 5/1)のO, 均質連結状構造, ち密度1.6で疎, 調査時の湿り湿, 層界波状明瞭。
第4層	40~50 cm	粗粒火山灰層, 腐植を欠く。
第5層	50 cm~	黄灰色(5Y 4/2)の亜泥炭, 均質連結状構造, pH(H <sub>2</sub> O) 5.3, 調査時の湿り潤。60 cmで湧水。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~13	6.4	0	10.3	55.9	33.7	SiC	85.0	2.30	4.93	0.49	10
2	13~35	4.6	0.2	41.8	36.2	21.8	CL	105.8	2.57	1.44	0.18	8
3	50~63	7.9	0.3	4.3	51.8	43.6	SiC	-	-	-	-	-

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	8.5	5.3	4.1	21.69	30.7	6.7	1.4	1.2	22.0	1.090	tr
2	2.5	5.5	4.1	18.90	18.7	5.4	1.5	0.3	29.2	-	tr
3	-	5.3	4.1	15.25	22.6	10.0	2.2	0.4	44.2	-	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、萌和統、当縁統、ペタン統等があるが、何れも堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結水成岩(凝灰質砂岩主体)

A-4 堆積様式 水積(河成堆積)

B 地形

標高10m~50m前後の低平地

C 気候

農期間の気温冷涼, 春夏は海霧の影響を受ける。秋季比較的好天となるが、同時に気温が低下する。農業上不利な気象条件下にある。

D 植生及び利用状況

半ば近く耕地として利用されているが、開墾後日の浅いところが多い。大豆, 菜豆, 馬鈴薯, えん麦牧草等が栽培されているが、排水不完全と熟畑に至っているところが少いため収量は低い。耕地以外は山林原野又は牧草となつている。

E 農業上の留意事項

極めて過湿の地帯であるから計画的な明渠, 暗渠排水の設置の必要であり, 伏流水の影響のあるところは更に排水渠等の設置も必要である。

酸性を呈するので酸性矯正をすること。堆厩肥等を肥用し, 苦土, 磷酸を施用して, 熟畑化の促進を図ることが望ましい。

F 分布

広尾郡忠類村晩生

記載責任者 菊地 晃二(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
当緑川統-当緑川統	IVwIIIpfIItn

② 土壤区別説明

当緑川統-当緑川区

示性分級式(畑)

土表有表耕	(表表土)	(透保湿)	(自保固)	(養置)	(有酸)	(障化物)	(傾自傾)	(侵人)	(耐耐)
壤生土	効土	土の	然	層分換	" "	効	学理	斜	水風
産力	の層	の風	水水潤肥	肥定塩	の石苦加	燐	的的	然	為
可	の層	の粘	の乾	沃	基	灰土里	害	障障	蝕
能	の厚	難	着	性	状	豊	害害	傾方	蝕蝕
性	深	性	性	度	含	" "	性	斜	度
等	さ	量	易	湿	性	性	性	斜	性
級	さ	量	易	湿	性	性	性	斜	性
	t d g p	w	f	n	i	s	e		
IV	II I I III	3 2 2	IV 3 3 3	III 1 2 3	II 2 2 1 2 2	I 1 1 1	I 1 - -	I 1 1 1	
簡略分級式	IVwIIIpfIItn								

A 土壤区の特徴

この土壤区は当緑川統に属する。作土は13~17cmで時々中庸、有効土層は1m以上で深い。地表下30~40cmのところに粗粒火山灰層が存在し、その下は亜泥炭となつているものが多く、一部は細粒質の粘質な層で、グライ化を呈している。

施肥力大、燐酸固定力中庸で、土層の塩基状態は不良である。

養肥分は加里、苦土はあるが、燐酸含量が少い。

特殊の障害性は存在しないが、極めて過湿な土壤である。

B 植生及び利用状況

面積の中は近くは耕地に利用され、大豆、菜豆、馬鈴薯、えん麦、牧草等が作付けられているが、排水不完全なため、又熟畑化されていないところが多く収量は低い。

C 地力保全上の問題点

計画的な明渠、暗渠排水の実施により、又伏流水の影響のあるところは排水渠の設置も加味した排水が必要である。

酸性を呈するから炭カルを施用(10a当り400~450kg)して矯正する必要がある。

有機物が少々少く、燐酸含量少いから、堆厩肥、緑肥等有機物を施用し、燐酸、苦土等を中心に施肥し、作土の熟畑化を図ることが望ましい。

D 分布

広尾郡忠類村晩生

記載責任者 菊地 晃 二(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和43年5月31日

平 和 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外、土性はSLである。腐植含量7.1%，色は10YRで彩度2，明度2である。礫なく、単粒状構造、孔隙なし、ち密度10で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.4との境界は明瞭である。

第2層は厚さ11cm内外、土性はLiCである。腐植含量3.22%，色は10YRで彩度1，明度1である。礫なく、発達弱度の粒状構造、細孔あり、ち密度13で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.3，下層との境界は判然である。

第3層は厚さ14cm内外、土性はLiCである。腐植含量1.68%，色は10YRで彩度3，明度2である。礫なく、均質連結状構造、細孔あり、ち密度16で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.4，下層との境界は漸変である。

第4層は40cm以下で70cmから湧水する。腐植を欠き、色は2.5YRで彩度2，明度4である。礫なく、均質連結状構造、細孔あり、黄褐の斑紋あり、ち密度14で中、pH(H<sub>2</sub>O)5.8である。

代表的断面形態

(所在地) 広尾郡大樹町拓北 試坑 No.231

第1層	0~15cm	腐植を含む黒褐(10YR2/2)のSL, 単粒状構造, 孔隙なし, ち密度10で疎, pH(H <sub>2</sub> O)5.4, 層界明瞭。
第2層	15~26cm	腐植にすこぶる富む黒(10YR1/1)のLiC, 礫なく発達弱度の粒状構造細孔あり, ち密度13で中, pH(H <sub>2</sub> O)5.3, 層界判然。
第3層	26~40cm	腐植に富む黒褐(10YR2/3)のLiC, 礫なく, 均質連結状構造, 細孔あり, ち密度16で中, pH(H <sub>2</sub> O)5.4, 層界漸変。
第4層	40cm~	腐植を欠く, 黄褐灰(2.5Y4/2)のCL, 礫なく, 均質連結状, 細孔あり, 黄褐の斑紋あり, ち密度14で中, pH(H <sub>2</sub> O)5.8, 70cmから湧水。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~15	3.5	49.9	31.0	12.4	6.7	SL	62.1	2.04	4.14	0.33	13
2	15~26	10.3	9.5	19.0	34.5	37.0	LiC	45.4	1.72	18.70	1.16	16
3	26~40	8.6	2.2	31.3	27.2	39.3	LiC	53.1	2.12	9.74	0.67	15
4	40~	8.0	3.1	49.5	32.2	5.4	CL	—	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
		H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	7.1	5.4	4.5	1.75	14.5	5.17	0.35	0.26	35.7	783	3.3
2	32.2	5.3	4.2	6.25	66.6	18.10	1.45	0.75	27.2	2,374	0.2
3	16.8	5.4	4.3	7.50	44.2	5.30	1.09	0.35	12.0	2,472	0.4
4	—	5.8	4.6	2.25	44.4	44.30	1.38	0.70	10.0	2,239	8.7

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては拓北統があるが、母材、堆積様式が異なるので本統と区分される。

A-3 母材 非固結火成岩／非固結水成岩

A-4 堆積様式 風積／水積（沖積）

B 地形 平坦～傾斜

C 気候

春夏海霧があり、夏季は一般に冷涼、秋季は比較的好天に恵まれるが、同時に気温が低下し、農業上良好な気象条件ではない。

D 植生及び利用状況

山林が多く、一部耕地に利用され、えん麦、牧草、大豆等が作付けられている。排水不完全のためその収量は低い。

E 農業上の留意事項

小河川の流域に分布し、また台地からの伏流水も加わり排水不良となつている。排水渠により伏流水の設置によつて土壌の乾燥を図らなければならない。又酸性も呈するので石灰の施用が必要である。

F 分布

広尾郡忠類村日和、公親、新生

調査及び記載責任者 菊地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和43年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
平 和 統 - 平 和 区	IIIwnIIfae

② 土壌区別説明

平和統一平和区

示性分級式(畑)

土 壤	表 土	表 土	耕 土	(表 土)	(表 土)	(土 透)	(土 保)	(自 湿)	(自 保)	(固 土)	(養 置)	(置 有)	(微 酸)	(障 有)	(障 有)	(災 増)	(傾 地)	(傾 自)	(傾 人)	(侵 耐)	(侵 耐)
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土	土 土	土 土	の 風	の 乾	水 水	潤 肥	肥 定	塩 基	石 灰	苦 土	加 里	磷 酸	害 質	害 障	害 障	冠 す	水 べ	の 傾	然 為	水 風
	の 層 磔	の 粘 土	の 粘 土	の 乾 硬	の 乾 硬	性 性	度 度	力 力	態 否	量 量	素 度	性 性	性 性	性 性	性 性	性 性	斜 斜	斜 斜	斜 斜	度 度	性 性
	t d g p			w	f	n	i	a	s	e											
III	I I I I	1 1 1 1	III 3 3 3	II 2 2 2	III 2 3 2 3	- 2	I 1 1	II 2 1	I 1 - -	II 2 2 1											
簡略分級式	IIIwnIIfae																				

A 土壌区の特徴

この土壌区は平和統に属する。表土の厚さは25cm以上、有効土層は1m以上で深い。表土の土性は

壤質で農具の使用は容易である。透水性小、保水力大で過湿のおそれが多い。保肥力中、固定力小、自然肥沃度は中庸である。

石灰、加里中、苦土、磷酸小、酸度中、養分は少ない。増冠水を受ける危険性が多少ある。地形は平坦である。

B 植生及び利用状況

山林が多く、一部耕地に利用され、えん麦、牧草、大豆等が作付けられている。排水不良のため収量は低い。

C 地力保全上の問題点

小河川の流域に分布した台地からの伏流水も加わり排水不良となつている。従つて排水渠により伏流水をおさえ、明渠排水、暗渠排水を設置してその効果を上げる必要がある。

D 分 布

広尾郡忠類村日和、公親、新生

調査及び記載責任者 菊 地 晃 二（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和 4 3 年 3 月 3 1 日

3. 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の説明

土壌の性状及び主要な保全対策を検討の上、次の 6 保全対策地区を設定した。

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主 な 特 徴	重要な保全対策
更 正	更 正 拓 北	1,424	平 坦 乾燥地 風蝕大 腐植含量小 作土層浅い 下層土の磷酸吸収力が大きい	防風林の完備 緑肥作物の増加及び堆厩肥の施用 磷酸肥料の多施 有機物を多用しつつ漸次深耕
萌 和	萌 和 平 和 中 当 明 和	926	平坦並びに一部緩傾斜地 排水不良 酸性を呈す 作土層が一般に浅い	河川改修の促進 暗渠排水の実施 炭カルの施用 漸次深耕
東 和	東 和 新 生 忠 類	686	平坦並びに一部緩傾斜地 適潤である 下層土の磷酸吸収力が大きい	有機物、塩基を補給し漸次深耕 磷酸肥料の多肥
アイボシマ	当 縁 当 緑 川	278	平 坦 泥炭及び泥炭質 排水不良 酸性を呈す	幹線大明渠 客 土 酸性矯正 保全耕作
ベ タ ン	萌 和 西 萌 和 東 東 宝	207	傾斜地 水蝕を受ける 一時的に過湿となる 有効土層が浅い	保全耕作 排水渠の設置
松 山	大 和	167	平 坦 風蝕大 乾燥地 腐植含量少ない 有効土層が浅い	防風林の完備 除 礫 緑肥作物の増加及び堆厩肥の施用



2) 保全対策地区説明

< 更正保全対策地区 >

① 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	該 当 土 壤 区 名
広尾郡忠類村	1,424	更 正, 拓 北

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

① 特徴と問題点

平坦もしくは波状性緩傾斜地で水蝕は軽微であるが、春季一時的な乾燥期に季節風の襲来によつて風蝕をうけ、かなりの被害をうける。表土は主として粗粒質の火山灰からなり、腐植含量少なく、養肥分の保持力は比較的小さく、流亡し易いものと思われる。一般に表土が少々浅く、風蝕によつて更に表土の薄くなつているところが多い。有効態磷酸が少ない、苦土にも欠乏している。

② 営農の方向

豆類を主とする穀菽経営が行なわれているが、最近乳牛を主とする主畜経営への転換を行いつつあることは気候的、土壌的に見て妥当であると思われる。牧草地を拡大して風蝕の防止を軽減すると共に堆厩肥、緑肥等の有機物の施用によつて保肥力の増大と地力の増進を図り併せて漸次深耕して作土層を深めて行くことが大切である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量
防風林の完備		幹線防風林の整備 計画的伐採 耕地防風林の整備育成 牧草導入	カラマン苗木 牧草種子の補助
牧草地の拡大 堆厩肥の施用		主畜経営の推進確立	乳牛導入の助成 畜産施設の融資補助
漸次深耕		緑肥作物導入 有機物を施用しながら漸次深耕	トラクター導入
施肥の合理化		磷酸, 加里, 石灰, 苦土 肥料の施用	石灰(200~300kg/10a) 苦土(4~6kg/10a)

< 萌和保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	該 当 土 壤 区 名
広尾郡忠類村	926	萌 和, 平 和, 中 当, 明 和

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

① 特徴と問題点

平坦～緩傾斜地で腐植層が深く、最表層は粗粒火山灰層で被覆されている。地下水位が高く排水不良である。また作土、心土共に塩基状態が不良である。従つて積極的に排水を行い、石灰、堆厩肥を施用して地力を向上させるように努めるべきである。

② 営農の方向

穀菽経営，混同経営，主畜経営等が営まれているが，本地帯の気候的な影響で主畜経営の方向に進みつつあるが経営の不振な農家が多いようである。土地基盤整備，土壤改良によつて生産力の向上を図り家畜の増加を図ることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類，型式，数量
排水		河川改修の促進 暗渠排水，一部捕水渠の設置	土管，工事費の補助
酸性矯正		炭カルスの施用	炭カル（200～300kg/10a）
深耕			トラクター導入助成

< 東和保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	該当土壤区名
広尾郡忠類村	686	東和，新生，忠類

(2) 保全対策地区の特徴

① 特徴と問題点

平坦もしくは波状性緩傾斜地で水蝕のおそれは少ない。しかし春季の一時的な乾燥期に季節風の襲来によつて風蝕を受ける。表土は粗粒の火山灰からなり、腐植含量は深いが養肥分の保持力は比較的弱く流亡しやすいものと思われる。有効態リン酸は少ない。

② 営農の方向

豆類を主とする穀菽経営が行なわれているが，最近乳牛を主とする主畜経営への転換を行いつつあることは気候的，土壤的に見ても妥当であると思われる。牧草地を拡大して風蝕の防止を軽減すると共に堆厩肥，緑肥等の有機物の施用によつて保肥力の増大と地力の増進を図り併せて漸次深耕して行くべきである。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類，型式，数量
牧草地の拡大 堆厩肥の施用		主畜経営の推進，確立	
施肥の合理化		リン酸，加里，苦土，肥料の施用	熔リン（30kg/10a） 石灰（200～300kg/10a） 苦土（4～5kg/10a）
漸次深耕		有機物を施用しながら漸次深耕	トラクター導入助成

<アイボシマ保全対策地区>

(1) 分布状況

都市町村名	畑面積 (ha)	該 当 土 壤 区 名
広尾郡忠類村	278	当 緑, 当緑川

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

① 特徴と問題点

泥炭, 泥炭質土である。最表層に粗粒質の火山灰層が存在し, 耕地として利用する場合はこの火山灰と泥炭の一部が混合している。泥炭の分解は不良で, 当然排水は悪く酸性を呈する。磷酸加里等の養分含量も少ない。これが耕地化するためには計画的な明渠排水の施工, 酸性矯正, 磷酸資材の投入等多大の経費と努力を要する。

② 営農の方向

排水工事の施工については当初から計画的に実施することが望ましい。台地との境界は伏流水があるので捕水渠の施工も合わせて考慮することが望ましい。海霧の影響をかなり強くうけるので牧草栽培を中心とした主畜経営が好ましいと思われる。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類, 型式, 数量
排 水		幹線大明渠排水 明渠暗渠排水	明渠, 暗渠排水工事費の補助
酸性矯正		機械力使用 炭カルの施用	炭カル(450~600kg/10a) ライムソア-導入助成
磷酸加里の補給		熔成磷肥の施用 加里肥料の増施	熔磷(40~50kg/10a)
客 土		粘土の客入	

<ペタン保全対策地区>

(1) 分布状況

都市町村名	畑面積 (ha)	該 当 土 壤 区 名
広尾郡忠類村	207	萌和西, 萌和東, 東 和

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

① 特徴と問題点

表層は一般に粗粒質で耐水蝕性に乏しく, 融雪期, 降雨時には水蝕をうける。又伏流水の影響により過湿になるおそれがある。また礫が表層から出現するので障害をうける。

② 営農の方向

本地帯の気候の影響で主畜経営の方向に進みつつあるが, 経営の不振な農家が多いようである。土地基盤整備, 土壤改良によつて生産力の向上を図り家畜の増加を図ることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
水蝕防止		流水防止，明渠排水 牧草栽培，緑作帯の設置	指導の徹底
排水		捕水渠の設置	指導の徹底

< 松山保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	畑面積 (ha)	該当土壌区名
広尾郡忠類村	167	大和

(2) 保全対策地区の特徴と問題点

① 特徴と問題点

平坦地で水蝕の心配は少ないが春季一時的な乾燥期に季節風の襲来によつて風蝕をうけ，かなりの被害をうける。表層土は粗粒の火山灰土からなり腐植含量少なく春肥分の保持力は比較的小さく流亡し易いものと思われる。一般に表土が少々浅く，風蝕によつて更に表土の薄くなつているところが多い。有効土層が浅く，表土に礫の出現している場合もある。

② 営農の方向

豆類を主とする穀菽経営が行なわれて来ているが，最近乳牛を主体とした主畜経営への転換を行いつつあることは，気候的，土壌的条件から見て妥当であると思われる。従つて牧草地を拡大して風蝕の防止軽減を図るとともに，堆厩肥，緑肥等の有機物の施用によつて保肥力の増大と地力の増進を図り併せて漸次深耕して作土層を深めて行くことが大切である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象の面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
防風林の完備		幹線防風林の整備 計画的伐採	カラマツ苗木の購入補助
牧草地の拡大		耕地防風林の整備育成	乳牛導入の補助
堆厩肥の施用		主畜経営の推進確立	畜産施設の融資補助
除 礫		有機物を施用しながら漸次深耕	トラクター導入
漸次深耕			
施肥の合理化		磷酸，加里の増肥 苦土の施用	苦土（4～6kg/10a）

4. 調査成績一覽表

(1) 土壤分析成績

保全 対策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学											
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地における		
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc	
更 正	75		1	0~18		32	—	305	463	768	141	9.2	SL	70.7	29.1	
			2	18~25		82	7.9	123	50.1	624	37.6	0	L	64.6	26.7	
			3	25~37		64	2.1	13.2	53.0	662	33.8	0	SL	74.2	24.6	
			4	37~50		100	1.2	27.1	69.1	96.2	3.7	0	—	—	—	
	拓 北	227		1	0~15		32	3.2	50.1	33.8	83.1	125	3.6	SL		
				2	15~22		7.7	7.9	6.1	42.2	48.3	37.8	13.9	L		
				3	22~30		6.4	2.6	6.1	52.1	58.2	23.9	17.9	CL		
				4	30~45		6.4	—	22.4	45.5	67.9	18.5	13.6	SL		
萌 和	156		1	0~12		4.9	9.6	43.8	28.1	71.9	15.4	12.6	SL	66.0	27.0	
			2	12~20		3.7	5.8	53.1	27.2	80.3	13.0	6.7	SL	88.5	36.3	
			3	20~40		9.9	20.6	2.1	12.4	14.5	38.8	46.8	HC	54.2	24.6	
			4	40~80		7.5	5.9	1.3	19.5	20.8	31.5	47.7	HC	70.2	26.8	
	平 和	231		1	0~15		3.5	7.1	49.9	31.0	80.9	12.4	6.7	SL	62.1	19.8
				2	15~26		10.3	32.2	9.5	19.0	28.5	34.5	37.0	LiC	45.4	15.0
				3	26~40		8.6	16.8	2.2	31.3	33.5	27.2	39.3	LiC	53.1	11.0
				4	40~		8.0	—	3.1	49.5	52.6	32.0	15.4	CL	—	—
	中 当	15		1			2.3	6.2	42.3	30.6	72.9	23.4	3.7	SL	82.5	29.7
				2			2.8	12.5	4.0	35.5	39.5	53.2	7.3	SiL	63.3	22.1
				3			8.7	15.3	3.1	39.5	42.6	48.3	9.1	SiL		
				4			9.4	13.9	3.1	59.4	62.5	25.6	11.9	L		
				5			8.9	7.2	5.6	61.2	66.8	26.1	7.1	SL		
	和 明	13		1			2.3	6.7	44.1	34.3	78.4	13.2	8.4	SL	100.6	45.3
				2			7.5	14.9	1.2	13.1	14.3	35.7	50.0	HC	68.0	28.3
				3			7.8	7.0	0.4	9.6	10.0	24.4	65.6	HC		
4						6.6	2.2	5.6	4.5	10.1	30.8	59.1	HC			
東 和	217		1	00~20		3.7	8.2	6.0	60.8	66.8	23.1	10.1	SL			
			2	20~30		—	21.8							56.1	22.4	
			3	30~50		10.1	10.8	7.1	46.8	53.9	34.3	11.8	L	49.1	30.5	
			4	50~70		8.0	—	34.2	52.5	86.7	3.9	9.4	LS	—	—	

性			化 学 性												
理学性 100 cc 容中			pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩容 基量 置換 me/ 100g	置換性塩基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
水 分 容 積 cc	空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %	H <sub>2</sub> O	Kcl		T-C %	T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
35.9	35.0	70.9	6.2	5.2	0.50	2.93	0.21	14	10.6	9.53	10.1	5.8	3.20	8.42	2.8
51.9	21.4	73.3	5.9	4.9	0.75	4.57	0.32	14	19.0	6.73	8.1	8.6	1.26	—	tr
43.2	32.2	75.4	6.0	4.9	0.75	1.20	0.15	8	12.9	4.49	8.1	6.7	1.24	—	—
—	—	—	6.5	5.1	0.50	0.68	0.09	8	18.4	1.68	1.41	5.6	3.0	—	—
			5.9	4.9	0.75	1.86	0.15	10	7.2	8.13	10.1	1.41	4.04	6.03	tr
			5.9	5.0	0.50	4.56	0.36	13	17.9	9.53	10.1	23.6	1.92	1.975	0.6
			5.7	4.6	1.50	1.50	2.20	8	1.41	3.93	10.1	1.88	1.01	1.709	tr
			5.7	4.5	3.75	—	—	—	13.1	1.9.6	2.82	1.88	5.5	1.553	tr
35.8	37.2	73.0	5.4	4.5	4.97	5.58	0.41	14	17.5	11.22	1.21	1.25	2.29	9.32	15.4
44.9	1.88	63.7	5.4	4.6	3.84	3.38	0.26	13	1.13	4.49	10.9	1.10	1.38	7.85	9.5
49.9	25.5	75.4	5.2	4.2	12.43	11.93	0.88	14	35.5	23.83	1.81	3.20	2.41	—	—
46.7	26.5	73.8	5.6	4.4	6.33	3.44	0.30	11	2.65	7.29	10.1	2.05	9.8	—	—
49.8	30.4	69.6	5.4	4.5	1.75	4.14	0.33	13	1.45	14.58	8.1	1.41	3.57	7.83	3.3
58.6	26.4	73.6	5.3	4.2	6.25	18.70	1.16	16	6.66	50.70	3.02	3.77	2.72	2.374	0.2
64.0	25.0	75.0	5.4	4.3	7.50	9.74	0.67	15	4.42	14.86	2.22	1.88	1.20	2.472	0.4
—	—	—	5.8	4.6	2.25	—	—	—	4.44	12.34	2.82	3.30	10.0	2.239	8.7
36.3	34.0	70.3	5.7	4.7	0.94	3.60	0.28	12	13.3	11.65	5.5	3.6	3.21	1.014	19.7
61.1	1.68	77.9	5.7	4.6	1.88	7.25	0.53	13	4.24	8.82	11.87	8.5	7.7	2.266	tr
			5.5	4.5	4.38	8.87	0.59	15	5.78	4.98	5.0	6.8	3.7	2.677	1.45
			5.6	4.5	4.38	8.06	0.51	15	43.5	4.71	7.8	7.0	4.3	2.734	tr
			5.8	4.8	0.30	4.18	0.33	12	3.11	4.61	1.28	10.3	5.8	2.529	tr
40.7	1.40	54.7	5.5	4.8	4.8	3.89	0.29	13	13.8	14.45	8.6	5.2	3.82	7.78	3.73
49.1	2.26	71.7	4.6	3.8	2.06	8.64	0.64	13	2.17	13.74	2.78	1.45	2.44	2.018	3.9
			4.6	3.8	7.50	4.06	0.34	11	50.5	1.65.6	7.09	1.64	1.27	1.879	tr
			4.7	3.7	7.62	1.28	0.14	8	3.80	203.7	6.15	1.43	2.05	1.526	tr
			5.6	4.5	2.50	4.73	0.34	14	1.46	11.22	6.1	4.7	2.76	8.78	4.8
50.1	27.5	62.5	5.5	4.5	5.00	12.64	0.83	15	4.10	11.78	1.21	9.4	1.01	2.691	tr
49.1	20.4	79.6	5.5	4.7	1.75	6.29	0.50	13	23.1	5.33	1.21	9.4	8.0	2.540	tr
			6.0	5.3	0.25	—	—	—	13.1	10.09	1.21	1.88	2.77	2.157	2.8

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学										現地における	
					礫 (風乾物中) %	風乾細土中		細土無機物中					土性	容積重 g	固相容積 cc	
						水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	シルト %	粘土 %				
東	新生	16	1		3.7	9.0	35.6	33.5	69.1	20.3	10.6	SL	89.9	329		
			2		7.8	13.5	6.0	48.7	54.7	36.5	8.8	L	52.5	19.0		
			3		8.8	10.4	5.1	57.7	62.8	29.6	7.6	L				
			4		8.0	4.9	9.5	66.6	76.1	21.5	2.4	SL				
			5		6.9	1.4	15.2	64.3	79.5	19.8	0.7	SL				
和	忠類	7	1		3.9	7.6	23.8	30.5	54.3	20.7	25.0	CL	82.0	31.4		
			2		8.7	27.1	3.8	24.5	28.8	28.8	42.9	LiC	59.7	27.8		
			3		8.0	18.3	5.7	21.8	27.5	36.1	36.4	LiC				
			4		6.8	9.5	3.7	62.5	66.2	16.6	17.2	SCL				
アイボシマ	当縁	115	1	0~1.5	8.2											
			2	1.5~2.8	0.9											
			3	2.8~4.5	6.6											
			4	4.5~6.3	5.3											
	当縁川	118	1	0~1.5	6.4	8.5	0	10.3	10.5	55.9	33.7	SiC	85.0	36.9		
			2	1.3~3.5	4.6	2.5	0.2	41.8	42.0	36.2	21.8	CL	105.8	41.2		
3			5.0~6.3	7.9	—	0.3	4.3	4.6	51.8	43.6	SiC	—	—			
ベタン	萌和西	174	1	0~1.9	3.3	5.0	33.9	43.2	77.1	17.2	5.7	SL				
			2	1.9~4.0	10.2	16.1	2.9	33.6	36.5	50.6	12.8	SiL				
			3	4.0~5.5	5.5	3.8	4.0	50.9	54.9	35.4	9.8	L				
	萌和東	168	1	0~1.3	5.3	5.3	32.3	38.7	71.0	22.5	6.5	SL	74.6	29.1		
			2	1.3~2.3	6.4	6.9	30.5	43.1	73.6	22.7	3.6	SL	85.0	31.7		
			3	2.3~3.8	5.0	3.0	42.8	36.2	79.0	17.6	3.4	SL	—	—		
東宝	19	1		2.4	6.6	51.6	20.3	71.9	14.0	14.1	SL	99.1	38.1			
		2		6.0	13.4	14.7	20.2	34.9	29.4	35.7	LiC					
		3		6.8	7.9	1.7	29.4	31.3	31.3	37.6	LiC					
松山	大和	221	1	0~1.4	2.8	5.5	41.1	35.8	76.8	16.1	7.1	SL				
			2	1.4~2.3	6.8	4.7	8.2	45.8	54.0	28.9	17.2	CL	69.2	18.7		
			3	2.3~3.5	5.5	—	7.5	57.5	65.0	21.6	13.4	SL				
			4	3.5~5.6	4.5	—	6.1	65.1	71.2	16.3	12.5	SL				
		5	1		3.8	3.8	12.7	26.7	39.4	31.3	29.3	LiC	79.2	28.7		
			2		3.1	2.0	4.5	30.6	35.1	33.2	31.7	LiC	109.2	44.7		
			3		3.3	1.1	9.2	49.3	58.5	24.1	17.4	CL				

性			化 学 性															
理学性 100 cc 容中			pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩換 基容 置量 me/ 100g	置換性塩基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 度	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g			
水分容 積 cc	空氣容 積 cc	孔 隙 率 %	H <sub>2</sub> O	Kcl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O						
			36.9	30.2	67.1	5.8	4.2	0.3	5.22	0.33	15	220	169.4	17.4	8.6	28.5	1437	62
50.5	30.5	81.0	5.7	4.7	1.2	7.83	0.56	13	368	135.2	106.3	6.2	14.2	2630	tr			
			5.7	4.8	0.3	6.03	0.47	12	31.7	63.7	77.7	5.1	7.9	2707	tr			
			5.9	5.2	0.3	2.84	0.28	10	21.9	87.5	39.9	3.6	15.5	2451	tr			
			6.1	5.4	0	0.81	—	—	13.2	35.3	24.3	6.6	10.3	2.065	tr			
			5.5	4.4	2.8	4.41	0.36	12	23.9	279.1	92.1	12.2	43.4	1,190	8.7			
45.1	27.1	72.2	5.6	4.5	1.8	15.72	0.81	21	60.7	575.8	68.9	7.3	37.1	2381	3.9			
			5.6	4.4	4.0	10.61	0.72	14	36.1	401.8	46.3	9.4	43.2	2545	6.5			
			5.5	4.4	3.7	5.51	0.46	11	48.7	319.1	46.2	6.6	25.1	2444	5.2			
			5.2	4.4	13.11	—	—	—	29.0	100.9	32.3	12.3	12.4	1,306	tr			
—	—	—	5.8	4.9	1.50	—	—	—	5.4	8.4	8.1	1.0	5.6	520	tr			
			5.1	4.1	21.25	—	—	—	34.2	182.3	50.4	4.3	19.1	1,566	—			
			4.9	4.1	16.73	—	—	—	—	126.2	62.5	2.1	—	—	—			
53.6	9.5	63.1	5.3	4.1	21.69	4.93	0.49	10	30.7	18.79	28.2	3.34	22.0	1,090	tr			
			5.5	4.1	18.90	1.44	0.18	8	18.7	151.4	30.2	9.2	29.2	1,164	tr			
			—	—	—	5.3	4.1	15.25	—	—	—	22.6	280.1	44.4	10.9	44.2	1,616	—
—	—	—	5.9	4.8	1.29	2.91	0.23	13	100	120.6	22.2	3.16	43.3	880	5.7			
			5.6	4.4	9.66	9.36	0.56	17	21.2	90.6	35.9	27.9	15.3	—	tr			
			5.7	4.4	6.44	2.19	0.17	13	14.8	22.4	10.1	1.80	49.9	—	—			
28.6	42.3	70.9	5.8	4.6	3.44	3.10	0.29	11	14.0	75.7	10.1	2.42	19.5	770	4.4			
			40.7	27.6	68.3	5.5	4.6	4.30	3.99	0.31	13	16.1	39.2	38.3	36.1	8.6	—	1.5
			—	—	—	5.8	4.7	2.79	1.71	0.16	11	10.8	33.6	10.1	1.78	10.7	—	—
33.3	28.6	61.9	5.5	4.6	2.5	3.38	0.51	7	15.7	131.3	25.8	5.2	30.6	718	20.5			
			5.3	4.2	11.2	7.77	0.60	12	38.7	236.9	27.8	11.4	23.2	1,643	7.2			
			5.2	4.1	25.0	4.58	0.43	10	38.2	216.3	28.0	13.8	21.7	1,557	tr			
53.2	28.1	71.9	6.1	5.1	0.25	3.17	0.24	13	10.3	145.8	6.1	9.4	50.1	745	tr			
			5.8	4.8	1.00	2.74	0.28	10	14.8	44.9	8.1	14.1	10.8	1,741	0.4			
			5.7	4.6	1.50	—	—	—	11.9	50.5	10.1	9.4	15.1	1,492	0.2			
			5.6	4.5	3.00	—	—	—	10.0	58.9	8.1	9.4	19.1	1,242	1.5			
23.3	48.0	71.3	5.35	4.15	7.81	2.29	0.295	7.8	26.0	311.4	65.7	17.5	45.9	1,057	tr			
			37.4	17.9	55.3	5.15	4.1	17.50	1.21	0.178	6.8	25.0	293.2	57.0	1.63	43.6	1,093	100
—	—	—	5.25	4.15	13.75	0.66	0.116	5.7	19.4	217.1	84.7	9.7	41.4	893	6.6			



保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	礫 (風乾物中) %	理 学									
						風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地における	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 cc
		8	1			32	10.5	129	428	55.7	23.6	20.7	CL	73.0	30.3
			2			9.2	27.9	7.0	16.5	23.5	35.4	41.1	LiC		
			3			9.8	43.9	0.8	30.5	3.13	29.3	39.4	LiC		
		20	1			5.5	10.3	27.5	23.2	50.7	27.5	21.8	CL	68.8	16.6
			2			10.0	29.6	0.7	22.4	23.1	36.5	40.4	LiC	49.4	30.7
			3			7.1	16.2	0.4	17.6	1.80	21.3	60.7	HC		
			4			5.7		5.5	23.8	29.3	26.2	44.5	LiC		
		22	1			2.1	5.8	61.0	16.8	77.8	9.1	13.1	SL		
			2			9.7	22.4	2.9	22.2	25.1	48.5	26.4	SiC		
			3			8.9	16.3	4.6	33.0	37.6	42.9	19.5	CL		
			4			6.5		10.9	52.5	63.4	27.2	9.4	L		
		23	1			3.3	6.8	35.9	31.6	67.5	24.7	7.8	SL	78.7	32.2
			2			7.6	3.2	9.3	78.3	87.6	10.9	1.5	S	65.5	24.7
			3			7.7	1.8	11.4	77.9	89.3	7.9	2.8	S		
			4			7.9		26.5	65.7	92.2	6.9	0.9	S		

性			化 学 性												
理学性 100 cc 容中			pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩換 基容 置量 me/ 100g	置換性塩基mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 取 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/ 100g
水分容積 cc	空氣容積 cc	孔 隙 率 %	H <sub>2</sub> O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
49.7	200	69.7	5.15	4.35	3.75	6.29	0.453	13.9	19.9	121.7	28.6	2.4	23.5	1.064	2.11
			5.05	4.15	15.00	17.81	12.30	14.5	57.2	37.23	35.6	3.9	25.8	1.946	tr
			5.15	4.35	8.76	28.24	14.02	20.2							
59.9 58.3	25.3 1.10	83.4 69.3	5.05	4.35	4.38	6.32	0.532	1.18	23.3	9.2	80.8	8.3	16.1	1.442	8.9
			4.95	4.05	14.38	19.08	12.24	15.5	5.6	113.9	166.6	6.1	7.6	2.300	tr
			4.95	3.85	25.00	10.11	0.667	15.2	36.6	109.7	70.5	4.4	1.15	1.444	5.6
			4.95	3.75	31.88				22.2	80.7	65.6	4.8	13.7	1.247	tr
			5.65	4.75	0.60	3.43	0.319	1.18	12.3	8.3	59.0	6.3	26.5	80.8	6.1
			5.65	4.55	2.50	14.38	1.295	1.11	5.4	495.4	68.2	9.6	33.0	2.457	12.4
			5.90	4.65	1.88	10.38	0.898	1.15	4.4	337.8	66.1	3.5	28.6	2.454	tr
34.3 44.3	33.5 3.10	67.8 75.3	6.25	4.85	0.30				2.9	208.3	70.1	6.2	26.9	2.235	tr
			5.75	4.85	0.30	4.07	0.292	1.40	15.6	134.0	4.29	1.19	3.17	1.367	7.0
			6.15	5.35	0.30	2.01	0.193	1.04	16.7	153.8	6.25	13.5	35.6		28.1
			5.95	5.20	0.30	1.13	0.138	8.2	14.5	124.3	19.6	3.5	33.2	2.127	tr
			6.15	5.65	0										2.271